

平成16年第1回佐渡市議会臨時会会議録（第3号）

平成16年5月6日（木曜日）

議事日程（第3号）

平成16年5月6日（木）午前10時01分開議

第1 議案に対する質疑

第2 議案の委員会付託

本日の会議に付した事件

日程第1 議案に対する質疑

日程第2 議案の委員会付託

追加日程 緊急質問

出席議員（59名）

1番	松本展国君	2番	大石惣一郎君
3番	本間勘太郎君	4番	中村剛一君
5番	臼杵克身君	6番	島倉武昭君
7番	木村悟君	8番	稲辺茂樹君
9番	金田淳一君	10番	臼木優君
11番	山本伊之助君	12番	浜田正敏君
13番	廣瀬擁君	14番	大谷清行君
15番	小田純一君	16番	末武栄子君
17番	小杉邦男君	18番	池田寅一君
19番	大桃一浩君	20番	中川隆一君
22番	岩崎隆寿君	23番	高野庄嗣君
24番	羽入高行君	25番	中村良夫君
26番	石塚一雄君	27番	若林直樹君
28番	田中文夫君	29番	金子健治君
30番	村川四郎君	31番	高野正道君
32番	名畑清一君	33番	志和正敏君
34番	金山教勇君	35番	臼木善祥君
36番	渡邊庚二君	37番	佐藤孝君
38番	金光英晴君	39番	葛西博之君
40番	猪股文彦君	41番	川上龍一君
42番	本間千佳子君	43番	大場慶親君
44番	金子克己君	45番	本間武雄君

4 6 番	根	岸	勇	雄	君	4 7 番	牧	野	秀	夫	君
4 8 番	近	藤	和	義	君	4 9 番	熊	谷		夫	君
5 0 番	本	間	勇	作	君	5 1 番	祝		優	雄	君
5 2 番	兵	庫		稔	君	5 3 番	梅	澤	雅	廣	君
5 4 番	竹	内	道	廣	君	5 5 番	渡	部	幹	雄	君
5 6 番	大	澤	祐	治	郎	君	5 7 番	肥	田	利	夫
5 8 番	加	賀	博	昭	君	5 9 番	岩	野	一	則	君
6 0 番	浜	口	鶴	蔵	君						

欠席議員（１名）

2 1 番 加 藤 真 君

地方自治法第 1 2 1 条の規定により出席した者

市 長	高	野	宏	一	郎	君	総 務 課 長	親	松	東	一	君
市 民 課 長	清	水	紀	治	君		企 画 情 報 長	齋	藤	英	夫	君
建 設 課 長	佐	藤	一	富	君		水 道 課 長	植	野	研	一	君
農 林 水 産 課 長	斉	藤		博	君		観 光 商 工 長	齋	藤		正	君
財 政 課 長	浅	井	賀	康	君		社 会 福 祉 長	熊	谷	英	男	君
環 境 保 健 課 長	仲	川	正	昭	君		医 療 課 長	木	村	和	彦	君
会 計 課 長	粕	谷	達	男	君		農 業 委 員 会 長	渡	辺	兵	三	郎
教 育 委 員 会 教 育 長	古	田	英	明	君		教 育 委 員 会 習 長	松	田	芳	正	君
教 育 委 員 長	豊	原	久	夫	君		教 育 長	石	瀬	佳	弘	君
選 挙 管 理 委 員 会 長	西	村	泰	弘	君		選 挙 管 理 委 員 会 長	仲	川	敏	明	君
消 防 長	加	藤	侑	作	君		両 津 支 所 長	佐	々	木	文	昭
相 川 支 所 長	大	平	三	夫	君		佐 和 田 支 所 長	中	川	義	弘	君
新 穂 支 所 長	末	武	正	義	君		畑 野 支 所 長	宇	治	秀	三	郎
真 野 支 所 長	逸	見	政	義	君		小 木 支 所 長	菊	地	賢	一	君
羽 茂 支 所 長	青	木	典	茂	君		赤 泊 支 所 長	中	川	逸	郎	君

事務局職員出席者

事 務 局 長 佐 々 木 均 君 事 務 局 次 長 山 田 富 巳 夫 君

議事調査係
議長

中 川 雅 史 君 庶務係長 加 賀 千 年 君

午前１０時０１分 開議

○議長（浜口鶴蔵君） おはようございます。これから本日の会議を開きます。

市長のあいさつ

○議長（浜口鶴蔵君） 市長より発言を求められておりますので、これを許します。

市長。

○市長（高野宏一郎君） 皆さん、おはようございます。議会の皆様方には、本日、それぞれまたご審議いただきたいと思うのですが、本日から執行部提案の議案の審議をいただくようになるかもしれません。その節は、またひとつよろしくをお願いしたい。一言お願い申し上げて、発言終わります。

〔「マイクが入っておらない」と呼ぶ者あり〕

〔市長 高野宏一郎君登壇〕

○市長（高野宏一郎君） 失礼しました。初めてなので。

再度、おはようございます。連休終わりました、すっかり晴れ上がったきょう、議会が続いております。きょうからは、執行部提案の議案の審議に入るといふふうに思われますが、ひとつよろしくをお願いしたい。一言お願い申し上げて、発言にかえさせていただきます。

執行部紹介

○議長（浜口鶴蔵君） 次に、親松総務課長より発言を求められておりますので、これを許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） おはようございます。総務課長の親松です。私の方から執行部側の紹介をさせていただきますので、よろしくお願いします。

〔執行部紹介〕

日程第１ 議案に対する質疑

○議長（浜口鶴蔵君） これから議案の順序に従い、質疑に入ります。

日程第１、議案第１号 専決処分の承認を求めることについて、括弧……

〔「議長、議事進行」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 竹内道廣君。

○54番（竹内道廣君） 議案質疑の前に言っておきますが、先般提出された議案のうち議案第９号、この議案に不備があります。直ちにこの議案は撤回すべきです。出し直すべきです。協議に入ってください。

〔「議長、議事進行」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） ちょっと会議の進め方に重大な誤りがありますので、ご指摘を申し上げたい。

恐らく本会議の前に議会運営委員会が開かれたのでしょうか。議会運営委員会が議会運営委員会の報告をやらないで、議事に入るといふことはあり得ないのです。お経が間違えておるのではないですか。お経というのは、次第のことでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） お答えいたします。

竹内議員からの発言について、議案の不備があるということではありますが、これについては後日議会運営委員会等を開いていただいて、協議させていただきます。

それから、加賀博昭議員の発言でございますが、これに対してはさきの本会議によりまして、9時30分からきょう、議会運営委員会開かれますよと。その内容について、緊急質問等が出ておりましたから、この日程等の協議を即座に行って、直ちに議事に入ったということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長、いいですか。それじゃちょっと困るんです。いいですか。協力はしますけど、やっぱり指摘すべきは指摘しなきゃ。議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） まず、議会運営委員長の会議についての日程報告がなければならない。だから、もし今臨時会の会期日程について改めて報告をされるのであれば、本日9時半から開かれたと思われる議会運営委員会の報告をまず先やって、なお日程等についてはなお審査を必要とするというのであれば、それは例えば緊急質問が終わった時点でさらに議運を開いて協議をしますということでない、会議がどう進むのか我々は全くわからないと、こういうことになるわけです。だから、私は会議には協力しますよということだから、ちょっと議運の委員長、議長のところへ行って相談してください。その上で、とりあえずきょう決められておる緊急質問まではやらせてくれというのであれば、これは変則的ではあるが、議会運営委員長の報告ではなくて、議長の議場指揮で私は目をつぶろうと、こういうこと。ちょっとやってください。

○議長（浜口鶴蔵君） 暫時休憩いたします。

午前10時12分 休憩

午前10時18分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

竹内議員の議事進行発言につきましては、後で総務課長の方からご答弁をいただくことにいたします。

さらに、加賀博昭議員からのご発言に対しましては、もう既に皆さんに日程等を配付いたしておりますが、前段申し上げましたように緊急質問等が出されておりましたので、この協議をさらにさせていただいたということと、この際皆さんに申し上げますが、本日の予定を私の方からご案内をさせていただきたいと思います。

本日は、今ありましたように市長あいさつ、執行部紹介、市長提案の議案の質疑、委員会付託をいたしまして、その後緊急質問をお二方から出されておりますので、これの作業を進めてまいりたいと思います。その後、各派代表者会議、付託議案の議案の審査と、こういう日程になっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

総務課長。

〔「議長。これは大事なんだ。いいですか」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） 竹内君の指摘は、この議案には瑕疵があるから、出し直せと、こういうことなのです。だから、そうだとすれば、総務課長は、これは改めてこの議案番号へいったときに、これについては先ほどの議事進行で竹内議員からこういうお話がございましたが、それについて答弁をいたしますということでやらなければならないので、議事進行というのの内容を十分つかまえないとだめなのだ。これは、出し直せという意味のことを竹内君は言っておるわけ。だから、今にわかに竹内君は内容について質疑しておるのではないのだ。だから、これはせっかく議長が言ったのだけれども、これは番号に従って答弁をさせていただくということではだめなのです。そういうこと知っているか。

○議長（浜口鶴蔵君） ご理解をいただきたいと思います。

総務課長。

〔「瑕疵がないということであるならば、9号でやらなきゃだめです。今やる必要はないです。私が9号のところで言ったのは、これ瑕疵があるから、今撤回したらどうかと言ったんです。だから、瑕疵がないということであるならば、9号でやるのが当たり前で、今取り上げる必要はない」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 暫時休憩します。

午前10時22分 休憩

午前10時22分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

総務課長から答弁をいただきます。

○総務課長（親松東一君） 議長の方からご指名がありましたので、ご答弁申し上げます。

この議案第9号につきましては、竹内議員の方から議案に不備があるので、撤回すべしというようなご意見がありました。私どもは、この9号につきましては不備がないのだろうということで確信をしておりますので、よろしかったら議案第9号の段階で質疑に応じさせていただきたいというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長、議事進行について」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 肥田利夫君。

○57番（肥田利夫君） お二方から緊急質問が出されておりますが、これは私が解釈したところによりますと事務局の受け付けがなされておきませんので、議案として取り上げるべきではない。お二方が勝手に我々の議席に配付をしたものというふうに解釈をしておりますので、議長がいかにこれを取り扱うか、決めていただきたい。

○議長（浜口鶴蔵君） お答えいたします。

この点につきましては、4月30日、そして5月の1日にお二方から緊急質問が出されたわけでありまして。そのことについて、先ほど議会運営委員会を開いて、この日程上、非常に苦しいけれども、緊急性ありということを議会運営委員会で決定をいたしておりましたので、これを本日の日程に追加したということですので、ご理解をいただきたいと思います。

肥田利夫君。

○57番（肥田利夫君） そういたしますと、これは受け付け印を押して出し直してください。これでは書類上不備です。

○議長（浜口鶴蔵君） 暫時休憩します。

午前10時24分 休憩

午前10時27分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

肥田議員の議事進行につきましては、確かにご指摘のとおりであります。緊急質問というのは口頭でもよろしいということになっておりまして、議会運営委員会でも受け付け時間等についての議論がなされたのは事実であります。今後このようなことのないように十分注意をし、運営してまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

〔「議長、議事進行でお願いをいたします」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 大澤祐治郎君。

○56番（大澤祐治郎君） 今までの本日の開会状況を見ておりますと、非常に議長並びに事務局の手順に一貫性がない。これは、きょう議運が開かれたのであるならば、まず議運の委員長が開会前に発言を議長に求めて、議運の内容を我々に説明するのがこれが当たり前のことです。それがもしできないのであれば、議長が議運の委員長から報告をいただいておりますので、議長の方から皆さんにご説明をしますという我々にご紹介があって、これがまた当たり前のことです。そういう手順がすべて後手後手になっております。これがすべて先例になっていきます。どうかひとつ初めてでもありますので、手なれていないということは一しんしゃくいたしましても、ぜひひとつまず議運の委員長の発言を議長から求めてください。そして、議運の決定内容をまずご説明なさり、それから本会議に入ると、こういう手順をやっぱり習慣づけるということを大事にしていきたいと思います。それが肥田さんが指摘した緊急文書の扱いについても、緊急性がありますから、議長の判断でどうでもなるのですが、そういったこともその中で我々に説明するという義務が私はあると思う。そういったことをきっちりしていただくことを今後ももちろんお願いをいたしまして、質問にかえさせていただきますが、ぜひお願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） お答えいたします。

先ほど申し上げましたように、今後十分留意されまして、納得のいく議事運営ができるよう努力してまいりたいと存じますので、お願いいたします。

大澤祐治郎君。

○56番（大澤祐治郎君） 皆さんに納得のいくような十分準備をした後に、今後は行うということは承知いたしました。今回は、議運の委員長が当然議運をやっておるわけですから、これは本会議前に当然報告するというのがどこの議会でも当たり前のことです。これを、では議長は今後は気をつけるから、今回は勘弁してくれと、こういう扱いをなさるのですか。議運の委員長に発表させればいいではないですか。議長は、何らおとがめもないわけです。どうぞひとつそういうようにお取り計らいをお願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） はい、わかりました。

それでは、議会運営委員長から、議事進行に対する私の見解を申し上げておきましたので、猪股文彦議会運営委員長から再度報告をしていただきます。

猪股文彦君。

〔「暫時休憩」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 暫時休憩します。

午前１０時３１分 休憩

午前１０時３２分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

猪股議会運営委員長。

○議会運営委員長（猪股文彦君） 先ほど議長の方から、議長の説明で皆さんにご理解をいただくということでしたので、あえて私は発言しなかったのですが、今議事進行の中でそういう要望もありますので、改めて委員長の方からご報告いたします。

本日の予定でございますが、先ほど行われました市長のごあいさつ、執行部の紹介が終わりました。

続いて、市長提案に対する議案の質疑を行います。そして、直ちに委員会に付託する。

次に、緊急質問、祝君、加賀君から出ておりますので、緊急質問を行うということになっております。

本会議終了後、議会選出の監査委員の選考について各派会議を開く。各派会議終了後、付託されました議案について常任委員会で審査をしていただくということになっております。

なお、あすの日程についてもこの際申し上げます。９時半に全員協議会、これは市長提出の人事案件について市長の方から説明をされるということでございます。

続いて、議会選出の監査委員の選任を事実上この全員協議会で行うということでございます。

続いて、各特別委員会の、まだこれ正式に市長と議長の間で予算等についての折衝中ですが、これは仮にですが、そういうふうなことになりますと、正副特別委員長を選任、設置及び選任を行います。その後各常任委員会において、討論、採決、委員長報告の作成等を行います。その後委員長に対する質疑等受け付け、また議運を開くというふうな手順で行いまして、本会議のめどは今のところ立っておりませんが、本会議を開きまして、委員会審査についての各委員長の報告、それに対する委員長に対する質疑、討論、採決を行った後、市長からご提案がありました人事案件についての提案、採決を行います。終了後、各特別委員会の設置及び正副委員長の選任、これを行いまして、議運の委員長の委員長報告、そして最後に市長からごあいさつがあるという予定になっておりますので、あらかじめ申し上げます。

以上。

○議長（浜口鶴蔵君） これから議案の順序に従い、質疑に入ります。

日程第１、議案第１号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市役所の位置を定める条例ほか314件の条例）の質疑を許します。

中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 議案第１号 佐渡市個人情報保護条例について、佐渡市条例集29ページです。

佐渡市の条例は、もともと市あるいは実施機関以外のコンピューターとの接続を行ってはならないこと

を前提として制限しています。コンピューターの結合の制限、第11条で32ページですが、ところがすべての国民の住民票に11けたの番号をつけて、住所とか氏名、そして生年月日などの個人情報を専用回線で結んで共有する住民基本台帳ネットワークシステム、いわゆる住基ネット、コンピューターのネットワークシステムに絶対安全はあり得ません。そして、個人情報の漏えいや不当な使用は避けられないところに根本な問題があると考えます。佐渡市は、市民一人ひとりの個人情報を守るべき義務があります。この第3条で、29ページにうたっていますけれども、しかし個人情報の保護するための回線切断などの明確な条文は整備されていません。最低限情報の漏えい等の危険がある場合は、回線切断等をする条文をきちんと整備すべき、私は考えますが、高野市長、いかがですか。1回目の質問です。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） それでは、ご答弁申し上げます。

今ほどの中村議員のご指摘のとおり、住民の個人情報につきましては当然のことながら私ども守る義務があるというふうに感じております。今ほどのご指摘のように、情報の漏えいは絶対あってはいけないということは私どもも常々考えております。もしこの条例にそういうことが明記をされて、さらに一層漏えいの防止に役立つということであれば、中村議員からもご意見をお聞きしながら、条例の万全化を期すということは当然のことであるので、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 今お答えいただきましたけれども、私は今後佐渡市個人情報保護条例は、最低限早急に条例改正でコンピューターの切断項目を設けるべきというふうに私考えます。お答えはいいですけれども、そのことを重ねて言っておきます。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） 条例集の9ページ、ここに課の設置についてありますけれども、ここに税務課がない。支所に税務課があっても本庁に税務課がないということはあり得ないと思うのですが、まず20市の中で税務課のない市はあるのかないのか。なぜ税務課がないのか。これが1点目。

同じ9ページに観光商工課となっておりますけれども、今まで商工観光課といったのですが、これは観光に重点を置きたいと思ってこういうふうにしたかと思いますが、奥まったようなところに観光協会を置いたりして、形だけこういうことをやっておいてもしょうがないと思うのですが、なぜこういうふうになっているのか。これが2点目。

3点目は10ページ、ここの（10）に防犯及び防災に関することとなっておりますが、この下に企画情報課がある。この防犯、防災ということは、事前に市民に知らせるということではありますが、この企画情報課とオーバーラップしたようなことになりはせぬかと。特に両津市の場合盛んに防災無線を言っておったのですが、防災無線の取り扱いはどこで行うのか、ここのところを明確にしてください。

それから、13ページ及び14ページについて、ここに吉井連絡所というものが載っておりませんが、この中で出張所が本庁から遠くなったら置くということはよく理解できます。その遠い岩首出張所や水津出張

所、海府出張所は民間に委託している。新穂支所から５分しかかからない、あるいは本庁から５分しかかからないところに何で吉井連絡所を置くのか。どこの所属に置いているのか。この条例集にはないのですが、しかも職員を１人配置している。しかも、市長、議長がいない間コンピューターが故障して、その連絡所が役に立たなかった。そして、新穂の出張所へ行ったら５分で行ってこれたというふうな話もありますが、その必要性について説明を求めます。

168ページ、166ページからです。特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例についての168ページ、農業委員会の会長や職務代理、委員の報酬が全部違っている。同じ仕事をしているのに、なぜこういうふうに金額が違うのか。報酬が違うのか。一番多い畑野の農業委員会の会長が５万8,600円、一番少ない赤泊の会長が３万7,800円。一島一市になったわけですから、こういうものは統一すべきではないかと私は思いますが、なぜこれはばらついて、赤泊の農業委員会の会長の職が軽くて、畑野の農業委員会の会長の職が重い。これはなぜなのか、その点をお聞かせ願います。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

企画情報課長。

○企画情報課長（齋藤英夫君） 今ほど猪股議員の方からご指摘のありました５点について、順次お答えをいたします。

まず、20市の中で税務課がない、佐渡市においてははないということについてどうということかというご質問でございますが、このことにつきましては合併協議の段階等におきまして十分議論をされてきたことでありますが、当初新市の組織については課制にすべきか部制にすべきかという議論等がございました。当初合併協議の段階では両論があったわけですが、合併協議会の方に提案申し上げましたのは課制でいこうということでした。その段階で、当初税務課ということについても設置の方向で検討していたわけですが、課の数が多くなってきましたどうしても職員の体制というものが多くなってくる。できるだけ課の数を減らした中で運営をしていこうということで、市民課の中に税務課の業務を含めまして、市民課の中で税務課の業務を行うということになりました。支所の中に税務課があるのはどうしてかということですが、支所につきましても今現在九つの支所があるわけですが、支所のパターンを二つに分けました。一つ目は、両津、相川、佐和田の支所につきましてはパターン１ということで、人口規模、職員数に応じまして課の設置をいたしました。それ以外の支所につきましてはパターン２ということで、税務課を置かない体制というものを構築をさせていただきました。これらのことにつきましては、合併後２年間についてはできるだけ住民サービスに混乱を起こさないような形で持っていこうということで検討してきたわけがあります。この後、この組織のあり方については早急に事務段階等におきましても検討委員会を設けて検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、２番目の観光商工課のことですが、観光商工課の言い回しがどうかということですが、確かに猪股議員おっしゃいますように観光行政というものに力を入れていこうということから、観光商工課という言い回しにさせていただきました。観光商工課の業務につきましても、この後職員の体制等につきましてもいろいろ議論の出ているところでありますし、これらにつきましても検討していきたいというふうに考えております。

また、３番目の質問であります、防犯、防災のことについて企画情報課の職務とオーバーラップする

のではないかとご指摘でございますが、防災行政無線等の業務を現在総務課の方で管理をしております関係上、防災の業務につきましては現在総務課の中に所管をしているということでありまして、今現在企画情報課の中でそれに類するような職務というものは行っておりませんので、現在ではオーバーラップをしていないというふうに考えております。

また、4番目の吉井連絡所の設置でございますが、吉井連絡所の設置につきましては現在市役所の中に所管をしているわけでありましたが、これはその組織の全体の考え方でございますが、2年間は住民サービスの低下を、混乱を低下を招かないという形の中で設定をしてきた。その関係から、吉井連絡所については設置をしているということでございます。この後これらについても検討をして、あるべき姿について検討していきたいというふうに考えております。

最後に、5番目の農業委員会の報酬でございますが、農業委員会の報酬については確かにご指摘のように最高の畑野町からそれ以外の赤泊村の農業委員会まで、報酬には差がございます。この農業委員会につきましては、当初統一という考え方も議論の中では出てきたわけでありましたが、平成17年の7月の19日まではそれぞれの農業委員会は存続をするということになってございます関係上、報酬等についてはその時点まで現在の形でいこうということになったことであります。この後この報酬等の関係につきましても、統合後については当然ながら統一をしていくという考え方でありますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） およそ説明の意味はわかりましたけれども、税務課については一番大事な国民の義務である税務課、答弁がなかったのですが、恐らく佐渡市以外は皆税務課を持っているだろうと思う。それを税務課を持たせないような方向に持っていった法定協は非常に問題だ。その決定自体に市民は不安を感じているというふうに私は思います。したがって、2年と言わず早急に、支所に税務課があって本庁に税務課がないなんてそんなばかなことあり得ないので、そこのところきっちりやってもらわないと、職員自体も困っているのです。よくその承知をして、早急にこのことについては庁内でご協議をいただきたい。

観光商工課の意味は、よくわかりましたけれども、これは市長がお考えになることですけれども、それだけ力を入れるなら、観光課は独立させるべきだというふうに思います。

それから、防災無線については、これ今オーバーラップしていないというのですが、私は不公平があると思うのは、ケーブルテレビが全島に渡っていない。そして、両津と金井はその部分を防災無線でやる。それなら、防災無線が各家庭にどのようにしていくのか。どうするのか。こういうことを課ごとが単独にやったのでは、またおかしなことになって、予算のむだ遣いになるから、そもそもそういうことを含めてどこか1カ所で調整しながら、市民サービスを低下しない広報広聴活動をすべきだという意味で言ったので、答弁は要りませんけれども、これも含めて組織的にやっていただきたい。

それから、吉井連絡所については、2年間なんか置く必要はない。そんなことをすれば、今度は本当に辺地と言われるところに住んでいる人たちの不公平感が増大する。したがって、こういうふうなものでできるだけ早く是正するなら、別に2年間かけなくても是正すべきは是正する。これ多額なお金がかかっていると思うのです。職員そこへ1人派遣して。たった5分で本庁や新穂の支所へ行けるのに、それなら岩

首や鷺崎から来ると1時間以上かかる。こういうものは民間に委託しておって、ここだけ本庁の職員を置く。もしどうしても置かなければならぬなら、これも委託にすべきだ。そういうふうなことを、しかもコンピューターが壊れておって全然役にも立たぬというふうな話を市民から聞いております。そして、新穂支所長そこにおりますが、5分で新穂支所へ行ける。そんなところにこういうものを置く必要ありますか。ほかの辺地の人たちのこれから持つ不便さを考えれば、そんな悠長なことは言っておれない。

それから、農業委員の報酬ですが、これは同じ仕事をして、しかも一島一市になったわけですから、こんなそれぞれが無理を言うふうな状態、みんなが我慢しなければならぬところにそれぞれ言い分を出すなんてことは、市民に対して申しわけないことだ。これは、早速に、幾ら1年しかないといったって、この不公平はこんなものすぐ是正できることなので、こういうことを放置しておいてはならないと思いますが、これで答弁は要りませんけれども、およそそういう方向で考えていただいているというふうに理解をして、終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第1号の質疑を終わります。

議案第2号 専決処分の承認を求めることについて（平成15年度佐渡市一般会計暫定予算ほか13件の暫定予算）の質疑を許します。

加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） ちょっと議長の進め方について、まず最初にお聞きしておきますが、この15年度の暫定予算のこれを一括質疑ということでやられるのか、はたまた款別でやるというふうにお考えなのか、まずそのところだけちょっとお聞きしたいのでございますが、いかがでしょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 一括でお願いいたします。

加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） 一括でやるということでございますので、一括でやらせていただきます。

頭でいしましょう。15年度の暫定予算というのが俗に言う合併に絡むどさくさにかき集めた事業計画、ちょっと乱暴な言い方するとそうなるのです。これ逐条やっておったら大変なことになるので、一括でやりますが、まず市債に58億9,450万組んでいます。これの細則を出していただきたいのです。どういうことかという、このところに50億の借金をして、どさくさとは言わぬけれども、かなりどさくさの仕事をやるということがうかがえます。そこで、これの内容を、審査の段階にこの市債の対象事業を詳細に出していただきたい。ここで質問しても、なかなか答弁できぬだろうと思うのです。だから、それは細則で出していただきたい。大まかなものは、当然のこととして事業計画で入っておりますが、もっと細則を出していただきたい。どういうことかといいますと、例えば道路なんかに使っておる起債であれば、どこの道路を何メートルやるのだ。どこの町村の道路を、町村ではありませんが、どこの地区の道路を何メートルやるのですがというようなものが恐らく張りついておるだろう。そういう意味で、市債を見るのが一番わかりやすいので、そういう意味で細則を出してください。細則項目と、こういうわけですが、それを出していただきたい、こう思います、いかがですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） 加賀議員からのご質問にお答えさせていただきます。

起債の内容等につきましては、今ほどご指摘のように詳細の部分については載っておりません。これ予算を編成する段階で、旧の市町村あるいは組合等で2月29日までに借り入れた残額の許可予定額をのせたものでございまして、この資料につきましては後日詳細の配付させてもらいたいということでご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） 基本的にはそれでいいのです。

それで、何で私が15年度の市債で聞いておるかというのと、これで合併するときに恐らく本庁の職員はよくわからなかったけれども、それぞれの旧10カ市町村がこの事業はこう進めてきたというものがあるはずなのです。それが市債の上ののってきておるから、この市債の内容を分析することによって、どさくさという言い方は適当ではないから、やめますが、合併する際にそれぞれの町村がどういうふうな事業を組んできたかということがここだろうかというのを知れる。16年度は、全く義務的な経費ばかりですから、これで議論することは全くないのでございまして、これを見ることによって新市建設計画のまずスタートがどういうふうな形で切っておるか、スタートがなされておるかということを知るためにはここをのぞくのが一番わかりいいと、こう思いますので、先ほど財政課長が答弁されたとおりでいいのですが、私の質問の真意をさらに具体的に、そのことをおわかりいただければ特に答弁は要りませんが、その詳細を出していただきたい、こういうことでございまして、終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第2号の質疑を終わります。

次に、議案第3号 専決処分の承認を求めることについて（新潟県市町村総合事務組合への加入）についての質疑を許します。

加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） ここでちょっと聞いておきます。

これは、事務組合への加入でございますから、まず基本的なことで平成16年3月1日が佐渡市のスタートでございますので、当然この日に職務執行者、小田初太郎によって専決処分されたということはそのとおりでいいわけです。そこで、別紙をちょっと見ていただきたいです。別紙の5項、地方公務員法第39条第2項、つまり職員の研修ですわな。それから、6項の災害補償、それから飛んで消防の災害、そこで私がお聞きしておきたいのは、これは当然のこととして予算化されなければならない。ここへいくと今度これ16年度の予算になるのですが、16年度の予算というのはまだ議案として提起されておりませんが、これの関連で見ていきたいわけですが、一体この条例に基づく負担金をどのくらい出しておるのか、まずそこからお尋ねをしたい。

その次に、改めてやっておきます。二つ、三つ一緒にやる。次に、新潟県市町村総合事務組合同規約というのがございます。これもあわせて見ていただきたい。ここで第5条の1号、2号、これはどういうことが書いてあるかということ、組合を組織する市町村長のうちから理事者を出すと、こういうことを決めてあ

る。それから、組合を組織する議会議長のうちから4人を選任すると、こういうことになっている。一体これはいつ、どういう形で選任されるのか。なおまた、佐渡市は後発部隊であるから、これは現在の段階では既に組織されておって、うちは仲間入りするだけだと、こういうことなのか、その辺はどうなっているのか。

それから、第8条へいきまして、副管理者及び収入役を置くということになっておりまして、今ほど私が申しました管理者については市町村長の中から互選するというのも記載されておりますし、10条へいきまして、吏員については職員を置くと、こういうふうになっていますから、これは先ほど私が冒頭に質問しました負担金との絡みがございますので、あわせてご答弁を願いたい。現在の組織体制はどうなっておるのか。そして、佐渡市がスタートすると同時にこれらの負担金として支出しておるお金はどのぐらいになるのか、この点についてお答えを願いたい。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） それでは、加賀議員のご質問にお答えいたします。

新潟県市町村総合事務組合につきましては、従来の一部事務組合、例えば退職手当組合等のものを県内一つの事務組合に統合したということでありまして、まず、予算の方ですが、予算につきましては財政課長の方からお答えしますが、規約の方の第8条、第5条、それから第10条等につきましては3月1日付で既に組織づくりが完了しておりまして、たしか理事長……失礼しました。

〔「代表」と呼ぶ者あり〕

○総務課長（親松東一君） 代表管理者は、豊栄市の市長さんだったかと思いますが、そういうことで既に組織ができております。10条の補助職員につきましても、従来の一部事務組合の方からの職員が総合事務組合に移管をされたというふうに聞いております。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） 公務災害補償基金への負担金等につきましては、16年度予算の中では概算で2,000万円ほど計上しておりますが、これにつきましてはこの後通常予算の段階で調整をして計上したいということで、現在総額的に幾らになるかということについてはちょっと資料としてつかんでおりませんので、その点ご理解いただきたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） 財政課長、大まか2,000万くらい暫定で組んでおるのだと、こういうことですが、これはあらゆる災害、それから大きな事業ということ、退職金だ何だというようなものも入ってくるわけですが、これの負担総額というのは暫定2,000万円ですけれども、どのくらいになるというふうに想定されておるのかというのは、今私どもは専決処分予算を審査していますが、既に皆さんの間では16年度の予算というものについて手をつけておるはずだと思うのです。そうすると、これは義務的経費になります。給与に次ぐ義務的経費になりますので、当然あなたたちは暫定2,000万というとりえ方ではなくて、佐渡市がこの一部事務組合に加入していくについては、このぐらいの金額は要るのだということは掌握し

ておと思うので、その金額をちょっと教えていただけませんか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） 公務災害補償の予算額につきましては、現在資料を持ち合わせておりませんので、委員会の段階で提出させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） それでいいです。今持っておらぬのだから、答弁できぬというのだから、委員会の段階で出していただきたいのですが、これは総務委員会のみならず全委員に配付をしていただきたい。非常に重要な部分でございますので。そして、個別予算の積算を出す。つまり何に幾らぐらい、何に幾らぐらい、何に幾らぐらいで幾ら負担をすることになるのだというふうにわかりやすい形で資料を出していただきたい。答弁は要りません。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第3号の質疑を終わります。

議案第4号 専決処分の承認を求めることについて（新潟県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び新潟県市町村総合事務組合規約の変更）、議案第5号 専決処分の承認を求めることについて（新潟県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び新潟県市町村総合事務組合規約の変更）、以上2議案は関連がございますので、一括質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 質疑なしと認めます。

議案第4号、議案第5号の質疑を終わります。

議案第6号 専決処分の承認を求めることについて（市町村合併に伴う佐渡土地開発公社定款の一部変更）の質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第6号の質疑を終わります。

議案第7号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市指定金融機関の指定）の質疑を許します。

中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 合併協議会でもいろいろこの件に関してはお話がありましたけれども、株式会社第四銀行にすると。本当に一つのメインバンクでいいのかという問題があります。緊張感を持たせるために、期間を決めて交代した方がいいと思います。その辺、高野市長はどうお考えになっているのか、答弁を求めます。

○議長（浜口鶴蔵君） 中村議員に申し上げます。

議案に対する質疑にはなじまないと私は考えておりますので、具体的にどこの部分をどうしたいという具体的な質疑をお願いしたいと思います。

中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 長引く不況の中で、銀行だって危ない銀行があると私は考えているわけです。本当に大丈夫なのかなというふうな、そういうことを質疑したのですけれども。

○議長（浜口鶴蔵君） 質疑でございますので。質問ではございません。

企画情報課長。

○企画情報課長（齋藤英夫君） それでは、今ほどの指定金融機関の指定に関する中村議員さんの質問にお答えをいたします。

確かに指定金融機関をどこにするかということにつきましては、合併協議の中でも非常に大きな問題になったことは事実でございます。この関係につきましては、合併協議の中では専門に担当しておられます収入役会の中で議論をいたしました。島内の指定金融機関を設けております市町村の指定金融機関の中から選定をしようということでありまして、指定金融機関の選定に際しましてはディスクロージャー等の資料の提出を求めまして、そしてまた指定金融機関の方からの意欲といいますが、そういった資料を提出をしていただきまして、検討をしたものであります。その結果、指定金融機関につきましては第四銀行が適当であろうということで、その判断をいただきましたことについて合併協議の中で報告を申し上げたところであります。この指定金融機関の期間等につきましては、特段の協議というものはしておりません。現在第四銀行に指定をしたということでございます。

以上であります。

〔「議長、議事進行」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 大澤祐治郎君。

○56番（大澤祐治郎君） ただいまの指定金融の件でございますが、指定金融法によれば、これは首長が推薦をして議会が議決をすると、こういうのが定めてあると思っております。しかるに、暫定予算といえども、新市長にご就任された高野市長がおいでなわけであります。市長の方から議会に対して、第四銀行を推薦をすると、お認めをいただきたいというご発言があるのが私は正しい定めだと思います。一課長の先ほどの答弁では、これは議会が納得し得ないものだと思っておりますが、これについていかがかと思っておりますのと、もう一つ議長についてお願いしたいのは、中村議員に対して質問が質疑になじまないというお話をされておりました。結論を出さないうちに担当の課長が出て、質問に対してご答弁をされております。正式に質疑になじまないのなら、提出をし直しをご指導するとか、きっちりしたやっぱりご指導があってしかるべきと、こう思いますが、いかがでございましょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 議事進行発言に対するお答えを申し上げます。

議員それぞれ見識がございまして、質疑と質問に対する認識というものを十分理解して、今後質疑、質問をしていただきたいという思いを私自身持っておりますので、私の判断で申し上げたことでございますので、よろしくお願いいたします。

それから、高野市長に対する答弁必要ではないかということではありますが、市長、高野市長からもし具体的に考えございましたら、この際申し上げていただきたいと思えます。

市長。

○市長（高野宏一郎君） ただいまのご質問にお答えしたいというふうに思います。

今課長から話ありましたように、第四銀行さんにつきましては収入役会で合併協議の中で十分検証し、十分信頼できる銀行であるということを答申いただいたわけであります。ちなみに、他の市、今幾つあるのかちょっとはつきりしませんが、ほとんど第四銀行だと、県内でございますが、第四銀行だという話も聞いております。したがって、今回ぜひこの議案をお通しいただきたいというお願いを申し上げている次

第でございます。

〔「議長、議事進行」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 竹内道廣君。

○54番（竹内道廣君） 議事進行の発言に対して一々答弁とったらどういうことになる、会議は一体。とんでもないことやっていますよ、会議運営が。間違っていますよ。しっかりしてください。

○議長（浜口鶴蔵君） 十分認識をしながら運営をいたしておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

議案第7号の質疑を終わります。

議案第8号 専決処分の承認を求めることについて（字の名称変更）についての質疑を許します。

中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 議案8号 字の名称変更について、私、高野市長どう考えているのかということと言いますけれども、どんどんいきますけれども、高野市長の政治姿勢が問われているのです。最も重要な議案と私は考えます。この専決では字の名称変更ということになっていますが、1点目、この地名問題について、合併協議会で佐渡市に引き継がれていることを再確認の意味で最初にご答弁を願いたいのが1点。

それと、2点目に、そのことを踏まえて、高野市長、合併前にはこの地名問題についてはいろいろさまざまな問題がありました。多くの人が前の旧市町村名を地名を残してもらいたいという意見があったけれども、高野市長はどう考えているのか。よろしくお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

企画情報課長。

○企画情報課長（齋藤英夫君） 今ほどの字の変更に係して地名問題ということでございますので、お答えをさせていただきます。

この地名問題に関しましては、合併協議会の中でも大きな住民の高まりを呼んだところであります。私も合併協議会の事務局といたしましては、この問題について新市に申し送りをしようということで、9月9日の合併協議会におきまして、合併協議会から新市の職務執行者あてに申し送りをするということになりました。申し送りの内容といたしましては、現在地名問題で課題になっておる事項については、合併時は協議会で決定した調整方針のとおりとするが、新市発足後速やかに旧市町村ごとに地域審議会等の場において検討し、住民の意向に沿って町名、字名の決定を行うという内容の申し送りを確認をし、そして現在そのような形で新市に申し送りをしておる状況であります。

以上です。

〔「高野市長は答えていない」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 市長。

○市長（高野宏一郎君） 今課長が述べたとおりでございますが、私の姿勢を問うておるのでございましょうか、それとも今の質疑であれば、今の課長の質疑を私は追認して、ここで終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） それでは、今の件でお尋ねいたしますが、今ほど課長は申し送り事項というものについても触れました。それは、新しく選任される市長が地域審議会等にかけて検討していくと、こういう、

してもらいということだろうと思うのですけれども、そこでここからが今度は高野市長の出番でございます。高野市長は、16年度の予算でこの地名問題の申し送りを受けて、その調査のための予算を16年度予算に張りつけましたか。その1点についてお答えください。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

市長。

○市長（高野宏一郎君） ただいまの加賀議員の質問にお答えします。

まだ予算査定中ございまして、その準備については十分配慮して、当然申し送り事項についてはそういう地域審議会から出た形で上がってくるということがあれば、当然予算をつけるということでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） 高野市長、それは逆なのでございます。地域審議会というのは、あれはあなたに何か意見を具申する組織ではございません。あれは、あなたがこういうことをやりたいが、いかがなものかと、例えば両津と言えば両津の事情は両津の審議会の皆さん方がよくご承知のことだから、私は例えば地名の問題で申し上げれば、地名については諮問してみたい。例えば市民の意見を聞いてみたいというふうに思うが、いかがかというのであって、審議会から出たらあなたがやるというのではなくて、あなたの考えを審議会に問うて、やると、こういうことでございますので、多分私の今申し上げたとおりだろうと思うのですが、そうすると高野市長は当然申し送り事項であるから、それは尊重して、そして一応審議会にかけてみると。予算を盛った上で審議会にかけてみる。それで、全く要らないわということになれば、それは不執行、未執行でいいわけです。執行しなくていいわけですから、それで、いや、やってみろということになれば調査費が要るわけでございますので、それは調査をしてもらおうと、こういうお考えだというふうに具体的に承知してよろしいか。その1点について、そのとおりならそのとおりでよろしゅうございますが、ご答弁いただきたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

企画情報課長。

○企画情報課長（齋藤英夫君） お答えをいたします。

今地名問題の関係につきまして、地域審議会等の場において審議をするということでありますので、そういうことについては今後また予算等の張りつけ等についても検討してまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

〔「ちょっとおれは3回だか質問しておるから、やらぬけれども、課長、あなた出しゃばってはいけません。これは、市長の答弁に対して私が再質問しておるのだから、そういうことですなと、こう聞いておるのだから、これは、議長、ルールでございますから、やっぱり高野市長に答弁させてください」と呼ぶ者あり〕

〔「ちょっと待つて。議事進行。おかしいぞ。だれが聞いたっておかしい、議長。私は、ちゃんと敬意を表して高野市長にお尋ねをしておる。そこへ課長がしゃしゃり出て、おれは予算のときに考えるなんてばかなこと言っ

おるわけさね。ばかということは訂正しますけれども、これはいやしくも佐渡市の市長ですわね。これは、市長が判断すべきことで、課長が判断すべきことではないでしょう。だったら、改めて高野町長に答弁をしてもらってください」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

市長。

○市長（高野宏一郎君） 皆様のご期待に沿うて、私自身の考え方も合併協議会でもめました地域の旧町村名のつけるということに対しては、地域の人たちにお任せするのがいいと思っております。ですから、地域審議会と、首長に対する諮問機関でもございますから、どうしてもつけるということはできませんが、地域の方々がつけたいという形で上がってくるものについては十分考慮して、配慮した予算のつけ方をすることでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案８号の質疑を終わります。

議案第９号 専決処分の承認を求めることについて（両津市若者定住奨励事業に関する条例の一部を改正する条例）についての質疑を許します。

竹内道廣君。

○54番（竹内道廣君） さっきから私は出し方がおかしいと。３月１日で１回これを専決して議決をして、４月１日でまたこの施行を流してきておる。一番最初に変えなければならないものは、両津市若者定住ではなくて、佐渡市若者定住奨励条例に変えるべきだと。これを続けておれば、おかしい話。中の内容のどこを変えようと、一部修正ではない。頭を変えなければ、こんなものが２カ月も３カ月もありもしない自治体がひとり歩きしておる。このことが私はおかしいのではないかと。ほかのところみんな変えておる。なぜこれだけこだわったか。この条例がいい条例だと。ぜひこれ使っていきたいというところから錯覚が始まっておると思うのです。一番最初に変えねばならぬのが、両津市若者ではなくて佐渡市にまずここを変える。ここを変えて、中を一部改正していけば、これで適応できるの、なぜこだわってこんなに、いつまでも引っ張っておる。小さな勘違いだと思うのです、これ。この条例いい条例だから、これ新市になっても受け継いでいきたいと。一部修正しながらやっていきたいと思ったから、そこからひっかかっておると思うのです。何いつまでもこれ、３月１日から１回施行して、さらに今度は４月１日からまたいじって、これ施行しておるのです。まず変えるのは頭です。両津市若者定住ではなくて、佐渡市若者定住条例と変えれば、何にも問題ない。これをなぜこうしてこだわるのか。私これ聞いておるのです。だから、この条例に不備がある。私は、出すならばなぜこれ佐渡市、頭を佐渡市に変えますよ、こうすれば完璧な条例でしょう。だから、私はおかしいと。これあなたおかしくないというのだ、これで。矛盾点はここにあるのです。これ２カ月も引っ張ってきたのです。両津市というのつけたまま。これの対象者になった人おったかおらぬかわからぬです。もしその人にこれを出しておるとしたら、おかしい話です。頭を変えるべきだと、まず。どうですか、答弁。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） それでは、竹内議員のご質問にお答えをします。

この議案第9号の専決ですが、両津市若者定住奨励事業に関する条例というこの条例につきましては、地方自治法施行令第3条によりまして、地域限定の暫定条例として告示をしてあるということをまずお伝えを差し上げたいと思います。3月1日付でこの条例を暫定施行した。暫定施行した後、若者結婚奨励事業及び出産事業、住宅取得事業以外の事業については3月1日から廃止すると。一たん3月1日で新市に引き継ぎをしました。引き継ぎをした時点で、同時にこの三つの事業以外は廃止をしますというのがまず一つであります。その次に、結婚奨励事業、出産奨励事業については3月いっぱいまで施行しますが、4月1日からは廃止をしますというのが二つ目の項目であります。結果的に何が残るかということになりますと、住宅取得奨励事業だけが残るということになります。この住宅取得奨励事業につきましては、3年間固定資産の2分の1を助成するというものでありまして、結果的に両津市だけの地域が、区域が対象になるということになりまして、条例のタイトルは両津市若者定住奨励事業というのが条例のタイトルで、私どもはこれでいいのではないかなということでご提案差し上げたものであります。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 竹内道廣君。

○54番（竹内道廣君） 指摘をされても、なおかつこれでいいのだ、これでいいのだというのだけれども、両津市というもうないのです。消滅した自治体です。旧両津地区ですか、これは指摘は、では。両津市はもうないのだということを私言っておるのです。これは、佐渡市に変えて、地域限定で両津地区についてというようなものになります。両津市というものが存続しないのだと、もう消滅しておるのだと。これを幾らこだわって書いたって、おかしいと言われたらおかしいと言われて当たり前だというのが当たり前でしょう。おかしくないのだ、おかしくないのだと。それならば、佐渡市の両津地区でしょう、両津地区。これを使ってこだわるところがおかしいと私言っているの、おかしくないとあなた言うのだ。もっと謙虚にならなければだめだ。そうだな、頭1回変えておけば、これ何にも問題なかったのだなと。両津ではなくて佐渡市にして、中を一部変更しておけば、両津地区だけ適用するような方法もあったのだということになるでしょう。こうやって流して2カ月もう過ぎておるのです。これまたまた流すのでしょうか。3年間。消滅した自治体の名前使って、その昔の地域の人に、地区の人に奨励政策をとっていくというのはおかしい話です。再答弁をお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） 何回も何回も間違いだ、おかしい、おかしいと言われると、何となくこっちもおかしいような気にもなりますが、これは両津市若者定住奨励事業に関する条例というタイトルの佐渡市の条例だというようなご認識でできたらご納得いただきたいというふうに思って。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） まず、議会に出す議案の出し方、こんなことを今おれが言わなければならぬというのまことに情けないのだけれども、まずこういう紛らわしい条例を出すときは、両津の議員だから、私頭の中に入っておる。しかし、この中には両津から来たのは12人しかおらぬので、あとはみんなよその町村。こういうときは、その条例全文を資料として出さなければならない。全文はこうでございます。そのうち

のこれとこれをこういうふうに直すのですということではなければ、説明になるわけではない。まず、条例がどうであるかということに先立って、こういうものを出すときはちゃんともとの条例全文を皆さんにお示しをした上で、この部分とこの部分を改正するのだという手続が要ということが一つ。

その次に、課長は暫定変更だと、こういうのだ。それならば、なおさらこれについては今私が言ったものをつけた上で、今回の改正については暫定改正であり、これの有効期限というのはここまでであると。なお親切ならば、それでは旧両津市のときの奨励条例のうち残って生きていくのは先ほど言った住宅の問題だけであるという説明をせねば、これはわからないということになるのだ。だから、行政側としては口が腐っても間違いですと、こう言えぬだろうと思うが、少なくともそのぐらいの説明あってしかるべしと思うが、どう思う。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） 今ほどの加賀議員のご指摘は、ごもっともだと思います。今後改正する場合には全文という、条文全文というわけにはまいらないかと思いますが、どの箇所をどう改正するのかと、その結果どうなるのかということは議会の皆様にご周知をするということで、私もそう感じておりますので、今後ひとつよろしくお願いしたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） それで顔は立ててやるけれども、こんなこと余り言ってならぬのだけれども、あれ全部出したって二、三枚しかないのだ。わら紙にして。両津の奨励条例なんていうのは。そのうちのどの部分をなどというほど大きな条例ではない。ならば、全文を出して、委員会で審査するように。そうしますというのか、いや、やっぱりさっき言ったとおり部分的に引き抜いてやるのだというのか、答弁願いたい。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） 実はこの条例は企画情報課の管轄で、総務課長ちょっと出しゃばり過ぎておりますが、今担当課長にお聞きをしましたら、条文を全文出すということですので、ご了解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 金光英晴君。

○38番（金光英晴君） 先ほど地域限定版だから、両津市ということで通用するということでありましたけれども、同じような条例が951ページの佐渡市旧新穂村有林野条例というのがあるのです。これは、暫定ではないのですが、本施行されてずっと続いていく条例だと思うのですが、暫定か否かで旧市町村名が残っていくのが今の議題になっておるところでありますし、そうでないのが条例集にあるやつだと。同じことなのに、どうして今の部分は旧市町村名がついて、頭に佐渡市がなくて、951ページの部分については佐渡市がついているのか。この部分もちょっと整合性がとれていないのではないかと。同じ佐渡市の条例なのに、整合性がとれていないではないかという疑問を残るのですが、この辺はいかがなのでしょう。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） 例規集951ページの佐渡市旧新穂村村有林野条例について、旧新穂村が残っている、いわゆる地域限定版であるが、どうかということだと思いますが、先ほどの若者定住奨励条例につきましては期限を切って条例施行してあるということですし、この条例につきましてはちょっと内容まで精査してありませんが、期限を切るということではなくて、本条例として専決処分として旧新穂地区、地内だけを該当するのだというようなことだと思います。したがって、先ほどの若者条例につきましては暫定施行でいわゆる暫定条例ということですが、この新穂村有林条例については暫定ということではなくて、将来ともこの佐渡市の条例として施行されるのだというような内容のものでここに載っているということで、さっきの若者定住とこの林野条例は矛盾はしていないのではないかなというような気がしますが、もしそういうご指摘があって、矛盾しておるということであれば、ちょっと私も法制上詳しい知識はありませんが、今後対応していくということにつきましてはやぶさかではないと思います。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第9号の質疑を終わります。

議案第10号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市税条例の一部を改正する条例）についての質疑を許します。

中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 年額2,500円を3,000円に改めると。両津では地方税、つまり個人市民税は2,000円だったものが合併した場合は2,500円になりますよと合併住民説明会で説明されていました。この一部改正では2,000円が3,000円になると、1,000円上がるわけですね。その背景はわかりますけれども、住民説明会と違うのではないのでしょうかというのが第1点です。

それから、もう一点は、佐渡市になったのですから、高野市長の政治姿勢で総務省にかけ合って、特例で1年間ぐらいは2,500円でやるべきだと、こういうふうに私思います。どうですか。そうしていただかないと、住民に説明できません、私は。いかがでしょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

市民課長。

○市民課長（清水紀治君） では、お答え申し上げます。

答えになるかわかりませんが、実は地方税のこれまでは合併協議会の中では2,500円で統一しようということで議論をされて、おっしゃるとおり議論されておりました。ところが、16年の3月31日付で平成16年度第17号の税条例の改正がございました。そういった形の中で、今まで2,500円となっておりました部分については16年度から3,000円にしたい。1.5倍の増税になるということは事実でありますけれども、皆さんもご承知のとおり三位一体改革の一環として、暫定措置としてこういうふうな国の方針が決まったということでございます。そういったことでご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（浜口鶴蔵君） 中村良夫君。

○25番（中村良夫君） 今ご答弁されましたけれども、つまり増税なのです。佐渡市民の負担がふえることになる一部改正する条例であります。では、もう一点聞きたいのは、2,000円から2,500円で幾ら増税か。

あるいは、2,500円から3,000円で幾ら増税なのか。世帯によっては3,000円から8,000円に負担がふえる場合も出てくると言われていますけれども、その辺試算をしていると思いますけれども、どうでしょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

市民課長。

○市民課長（清水紀治君） お答え申し上げます。

ただいま2,000円でやっておりますけれども、今の住民税を納めていただいている方が2万723人ということで、2,000円ですと4,000万、2,500円で5,000万、3,000円ですと6,000万という財源内訳でございます。そういうことでご理解いただきたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第10号の質疑を終わります。

議案第11号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第11号の質疑を終わります。

議案第12号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡海洋深層水ブランドの使用に関する条例）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第12号の質疑を終わります。

議案第13号 専決処分の承認を求めることについて（市町村合併に伴う佐渡市国民健康保険税条例の適用の特例措置に関する条例）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第13号の質疑を終わります。

次に、議案第14号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例）についての質疑を許します。

加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） これは、一部改正をしてあるわけだから、何がどうなったという説明をしてもらわぬと困る。そこで、これが定説になっておるものだから、こういう改正案をずっと出すのだけれども、提案理由の中でやっぱりきちと幾らが幾らになるのだという説明をされたいと思うので、改めて担当課長に聞きますが、幾らが幾らになるということの改正か、お尋ねします。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

環境保健課長。

○環境保健課長（仲川正昭君） 加賀議員のご質問に対してお答えいたします。

現在家電製品としましてテレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等が家電リサイクル法の適用になっておるところでございますが、この4月1日からリサイクル法施行令の一部改正に伴いまして、先ほど申し上げました4電化製品のほかに新たに冷凍庫が1個につき1,000円を追加するものでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） これは法律改正だから、それをそのまま持ってきたのだらうと思うのだから、それ

はあれなのだが、これは必ずそうしなければならないという義務条項ですか。お尋ねしておきます。できる条例なのか、義務条例なのかと聞いておるのです。つまり義務条例の改正なのか、できる条例の改正なのか。つまりそこまでやっていいよと、それをふやしていいのだよというのか、その辺のところの法律の規定はどうなっておるかということを聞いておる。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

環境保健課長。

○環境保健課長（仲川正昭君） お答えいたします。

義務的なものと考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第14号の質疑を終わります。

議案第15号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市立学校設置条例の一部を改正する条例）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第15号の質疑を終わります。

議案第16号 専決処分の承認を求めることについて（畑野町ゲートボール場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例） 議案第17号 専決処分の承認を求めることについて（佐渡市畑野ゲートボール場条例） 以上2議案は関連がございますので、一括質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第16号、議案第17号の質疑を終わります。

議案第18号 専決処分の承認を求めることについて（両津市長等の退職手当に関する条例を廃止する条例） 議案第19号 専決処分の承認を求めることについて（両津市教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例を廃止する条例） 議案第20号 専決処分の承認を求めることについて（両津市職員の退職手当に関する条例を廃止する条例） 以上3議案は関連がございますので、一括質疑を許します。

猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） ちょっと理解の仕方がまずかったというなら指摘してもらいたいのですが、両津市の市長、教育長はなくなったし、いいのですが、職員というのはずっと残っていくわけですが、退職手当というのが退職金になるのかどうなのか。そうだった場合、この条例を廃止して、今後どういうふうになるのか説明を求めたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） 猪股議員のご質問にお答えをします。

従来旧両津市では、退職金につきましては自前で毎年予算措置をしていました。今度佐渡市になりますと、先ほど議案の中でご審議をいただきました新潟県市町村総合事務組合、いわゆる旧退職手当組合に加入するということで、退職手当としては必要ないと。ただし、掛金として総合事務組合の方にある一定の額を負担するということになります。したがって、職員であっても退職手当条例そのものは必要ないということになります。佐渡市全体で総合事務組合の中で退職手当条例という、それにかわるようなものを総合事務組合でつくってある。それに基づきまして一般職の職員に、特別職も入っておりますが、支給

されるということになります。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） そうしますと、7万都市になったわけですが、20市の中でこういうシステムを、例えば退職基金といいますか、そういうものを設けていないものが20市の中に果たしてあるのかどうなのか。そういう考え方になりますと、私は例えばそういう基金を積んでおけば、対金融機関との一借の問題、それから緊急の大きな災害のときの市長の考えによる運用等ができる。しかし、今回こうして縛ってしまうと、しかも16年度の財政は一島一市になったから、豊かだろうと私は想像いたしますけれども、もしこれが豊かでない場合に、いろんな場合が想定されるわけですが、20市の中でこういうふうな7万都市でこういうふうなシステムをとっているところはどこか。逆に考えると、町村の場合は財政力が弱いから、職員の待遇とかそういうものに不安があるから、そういうシステムをとっている。例えば民間で言えば零細企業もそういうシステムをとっておる。ところが、一定の規模の一定の市はそういうことはとらないのではないかと思うのですが、20市はどうですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

総務課長。

○総務課長（親松東一君） お答えします。

今の猪股議員の議論につきましては、合併協議会の中でも話をされたことであります。当初両津市の職員が入ることによって、50億要るとか40億要るとかというような数字が出ておりました。しかし、結果的に入ることによって、その年その年の退職金の増減がなされるということが一つのメリットでもありますし、もう一つは掛金よりも退職金、生の額の方が少ないだろうという二つの理由で結果的には退職組合に、総合事務組合に入ると、佐渡市も総合事務組合に入ることになりました。したがって、ではほかの市はどうかということになりますが、議案第3号の資料で総合事務組合で共同処理をする事務というところがありますが、組合市町村等の常勤の職員及びその遺族に対する退職手当の支給について、組合市町村等では該当する市町村がここに一覧表にあります。別表2です。失礼しました。別表1です。別紙、新潟県市町村総合事務組合への加入についてで、組合市町村等の常勤の職員及びその遺族に対する退職手当の支給につきまして総合事務組合で処理をするということで、別表2の1、佐渡市がここに掲げられておりますが、その他の市はちょっと見た感じではないようです。失礼しました。4月1日から阿賀野市が新規に加入するというふうになっておるそうです。

○議長（浜口鶴蔵君） 猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） 高野市長、お聞きのとおりで、市長には質問しませんが、私の言った趣旨が正しいと思うのです。したがって、町村は非常に財政的に弱いだろうから、職員のことを考える。しかし、まともな市はこんなことはしないだろうと思う。事実ここにそのように載っているわけですから、これは再検討すべきだ、このように思いますので、一たんこれを認めたにしても、こういうふうな財政の運営は今後非常に逆に市長を縛ることになると思うのです。十分これは検討しなければ。とにかく両津市が法定協のとき言ってきたのは、何でもやめればいいと、町村でやったとおりになればいいというその考え方がここに出ている。ところが、財政運営上も、さっきの言ったいろんな組織の運営でも、非常にある意味で

は間違っただけをやっている。これは、市民に対して大変不安を与えることだと思う。だから、したがってこれは早急に、一たんこれを通したにしても、早急にこれは是正すべきだということを申し添えて、質問終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第18号、議案第19号、議案第20号の質疑を終わります。

申し上げます。お昼を少々回りましたが、議案24号まで続けて質疑を行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議案第21号 専決処分の承認を求めることについて（平成15年度佐渡市一般会計暫定補正予算 第1号）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第21号の質疑を終わります。

議案第22号 専決処分の承認を求めることについて（平成15年度佐渡市一般会計暫定補正予算 第2号ほか7件の暫定補正予算）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第22号の質疑を終わります。

議案第23号 専決処分の承認を求めることについて（平成15年度佐渡市松ヶ崎財産区特別会計暫定予算及び平成15年度佐渡市真野財産区特別会計暫定予算）についての質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第23号の質疑を終わります。

議案第24号 専決処分の承認を求めることについて（平成16年度佐渡市一般会計暫定予算ほか12件の暫定予算）についての質疑を許します。

猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） いっぱいありますけれども、時間がありませんので、一つだけ例をとって、そして新年度予算にはそのようにないようにはしていただきたいのですが、81ページを例にとります。児童福祉総務費の中で、13節委託料6,300万余りの中で私立保育園運営委託料3,274万8,000円、私どもの今までの経験だとこれ補助金なので、委託料というのはよくわからない。委託料であってもいいわけですが、これはどういうものか、これ1点だけ聞きますが、こういう場合この後の漁港もそうなのですが、どこなのだ。箇所を入れてもらわぬと、10カ市町村になったのだから、さっぱりわからない。この予算書全体的に箇所が入っていないから、一つ一つ質疑したら大変なことになるから、16年度の予算には漁港の場合はここ、港湾の場合はここ、この場合はどこと旧市町村名でもいいですし、字名でもいいですから、箇所を入れていただきたい。そこで、この1点だけ、これはどういうことか聞かせてください。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（熊谷英男君） それでは、今のご質問にお答えいたします。

81ページの私立保育園運営委託料の関係であります。金井支所管内の隣保館、同じく金井支所管内の平泉保育園、それから相川支所管内の姫津保育所であります。

以上であります。

○議長（浜口鶴蔵君） 猪股文彦君。

○40番（猪股文彦君） そうしますと、両津市にある海星幼稚園ですか、これは幼稚園ですから、保育園と違うかもわかりませんが、そうすると保育園については委託するけれども、幼稚園については、幼稚園関係だけかある。幼稚園については補助金であると。そうすると、これ以外には私立保育園というものは佐渡にないという理解でよろしいわけですか。それで、私立保育園というものについては委託料であるというふうに法律で決められているわけですか。その点と、保育園は委託料でやるように決まっているのか、それから幼稚園については補助金でやるように決まっているのか。これ幼稚園がないので、ちょっとあれですが、同じようなものとして、もし答えられれば答えていただきたい。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（熊谷英男君） 幼稚園の件につきましては、教育委員会サイドになりますので、学校教育法の関係になります。保育園につきましては、措置費委託ということになりますので、義務的になっております。

○議長（浜口鶴蔵君） 大澤祐治郎君。

○56番（大澤祐治郎君） お昼飯を前にして若干お時間をいただきたいのですが、16年、いわゆる暫定予算、これで質疑がなくなってしまうものですから、ちょっとお聞きをさせていただきたいのですが、この二、三日前から新聞等で、三位一体改革によって交付税が地方に及ぼす影響が大幅に懸念されて、それぞれ予算措置をされた議会はもとよりですが、これから予算措置をしなければならない当市にとっては非常に大きな頭の痛い問題だと私は思うわけであります。そこで、若干の既成概念だけ教えていただければ結構なのですが、新聞等では12%の大幅ないわゆる財源削減があると、こう言われております。そういったときに15年、16年の暫定を見渡したところ、99億1,228万9,000円という交付税が行われて、暫定予算が組まれてまいりました。しかし、6月から新しい高野予算ができるわけでありますが、その予算に先立って、市長は財源確保等に臨時的な基金を取り崩すなんていうような、そういう心配なく予算が組めるというような見通しをお持ちなのかどうか、それだけひとつお聞かせしておいていただきたい。お願いいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） ただいまの大澤議員の質問にお答えいたします。

国の三位一体改革によりまして、地方においても厳しい財政運営を強いられるということで、当佐渡市におきましても概略の計算であります。交付税並びに臨時財政対策債等の関係では約13億4,000万程度の歳入減が見込まれるということで、そうした財源不足をこの後の本予算の編成においては、建設計画にのっている事業、あるいは従来旧団体等での要望が出ております予算、それら全体的に財源をどのように張りつけるか、また基金の充当をどうするかというようなことも含めて、編成段階において検討させてもらいたいと思います。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） それでは、もう少し具体的に聞かざる。

私が1月30日に佐渡市の16年度財政計画を分析してみました。あなたたちが10カ市町村長が決めた16年

度予算というのは、575億1,500万、そうでしょう。それを私が分析をしてみた。あなたたちは、そのときの予算の計画では25億何がしという手持ち金を持っておるはず。ところが、今課長が説明した13億4,000万、私の数字ではこんなに減らなかったのですけれども、それで計算すると170億という起債が、建設費が、起債ではなくて建設予算です。170億、これは約半分になるだろうというふうにして計算をしてみますと、皆さんが10カ市町村が立てた予算計画、これの575億1,500万は500億ちょうど、私の計算だと488億という数字が出るのですが、まず500億に減るというふうには私は計算をしてみたが、私の計算は当たらずとも遠からず、まず間違いはないというふうに見ておるが、今課長が具体的にお話をしてくれればこの質問をするつもりはなかったが、私の数字はほぼ近いでしょうと、こうあなたに聞くが、どうですか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） ただいまの加賀議員の質問にお答えさせていただきます。

当初合併協議の中での財政計画につきましては、お話のように570億強の財政規模の財政計画でありました。これにつきましては、先ほどのお話のように国の三位一体の改革あるいは県の財政事情等、厳しい財政事情がございます。それと、景気の動向等もありまして、予算の編成の段階では見直しをせざるを得ないというふうに考えております。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） 私が聞いておるのは具体的なのだ。575億が大体500億ぐらいに圧縮せざるを得なくなっておるのではないか、そう聞いておる。いや、全然あなたの今違うよと、もっと悠々たる予算が組めますよというのか、ほぼそんなところへ落ちつくかなというか、そうやって具体的に聞いておるのに、あなた何むにやむにやむにやというふうに、むにやむにやも言わないが、数字が不明確だが、どうだと聞いておる。私だってこうやって聞くからには、加賀博昭の財政の計算のノウハウを駆使して聞いておるのです。恥かくときは私はかくつもりで聞いておるのです。お答えください。うそならうそだと言ってください。もっと具体的な根拠を示すから。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

財政課長。

○財政課長（浅井賀康君） ただいまのご質問にお答えさせていただきますが、現在の段階では当初の財政計画であります金額を下回るということで、500から550ぐらいの範囲内で編成できるかなというような見通しでございます。

○議長（浜口鶴蔵君） 議案第24号の質疑を終わります。

日程第2 議案の委員会付託

○議長（浜口鶴蔵君） ただいま議題となっております議案第1号から議案第24号までをそれぞれの所管の委員会に付託します。

ここで暫時休憩します。

午後 0時20分 休憩

午後 1時21分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

追加日程 緊急質問

○議長（浜口鶴蔵君） 市長と議員の選挙で選挙管理委員会の対応についての件について、祝優雄君から緊急質問の申し出があります。

お諮りいたします。この際、日程に追加し、直ちに緊急質問を行うことにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） ご異議なしと認めます。

祝優雄君の発言を許します。

祝優雄君。

〔51番 祝 優雄君登壇〕

○51番（祝 優雄君） 臨時議会の限られた時間の中、緊急質問を認めていただいたことにまずもって感謝を申し上げます。

私は、佐渡一島一市を目指し、佐渡市の実現に向け行動を起こして三十数年になります。当時は、今は亡き近藤元次先生が県会議員、町村会長は今回議員としてこの議場におられる田中議員のお父さんが金井町長としての町村会長を務めておられました。また、一島一市を掲げ、国会を目指す山本悌二郎さんがおられました。これらの方々と交えて検討、勉強をしてきたところであります。しかしながら、山本悌二郎さんが1期国会議員として活躍され、残念なことに先生の姿とともに一島一市の話は一時立ち消えの状態でありましたが、一島一市を目指して私どもが立ち上げた佐渡青年会議所が継続的に研究と発言、行動を続け、一島一市の実現に先兵として若き力を発揮していただいたことに最大の敬意を表するところであります。

平成16年3月1日に佐渡市が誕生し、市長と議員を選ぶ選挙が激戦の中行われ、投票率も87.36%と島民の関心は高く、それぞれの方々が島づくりに一人ひとりの思いを重ね、投票され、市長と議員を選んだのであります。私自身、投票結果に責任の重さと島民の強い視線を感じ、緊張感の中、この場に立たせていただいております。この緊張感を忘れることなく、職務に取り組むことがご支援いただいた方々へのまことのあかしと心得ております。記念すべき佐渡市のスタートのとき、選挙事務について緊急に質問しなければならぬことはまことに残念であります。すべてをかけて臨んだ候補と支持者にとって、選挙事務について少しの疑念も許されるものではありません。選挙事務は、どの候補にも公平でなければならぬのは当然であります。そこで、幾つか疑問点を示し、選挙管理委員会の基本姿勢と処理手続と選挙管理委員会の責任について質問をいたします。選挙管理事務は、公平、明快、明確でなければならぬのは当然で、選挙事務が市長と議員の生命を左右することでもあり、島民も注視している中での質問であります。

それでは、具体的に議員の選挙よりお尋ねをいたします。選挙事務についての反省点をお持ちなら、まずお聞かせをいただきたい。開票が地区ごとでなく1カ所で行われたのはなぜなのか。開票事務の終了時間が翌日にずれ込んだと聞いておりますが、主な理由は何なのか。呼称の扱いについて、予定者説明会ではどのような説明がなされ、事前審査は各支所で統一された説明と扱いがなされたのかどうか。呼称申請

書にある呼称の扱いと呼称届の扱いをどのように区別し、候補者にどのような説明をしたのか。呼称について、事前審査では注意がなかったのではないかという指摘がありますが、いかがですか。

次に、公職選挙法67条、無効とされる投票は法律に規定されていて、それぞれに理由がある。それ以外の投票は、原則として有効になるという判例があります。このことについて、どのようなことをもとにこの選挙事務が行われたのか。

次に、市長選挙についてお尋ねをいたします。確認団体の届け出があったのかどうか。あったとしたら、だれが届け人で、所在地はどこで、目的は何なのか。法定ビラ第1号が新聞折り込みで配布されたが、事前審査はなされたのかどうか。事前審査があったとすれば、そのとき県の選管に内容を照会し、意見を求めたのかどうか。審査について問題点を指摘した箇所があったのかどうか。内容について事実と異なったことが明記してあっても、例えば何が書いてあっても有効と考えなければならないのか。事前審査過程で警察などに問い合わせた事実があるのかないのか。

以上について、まず答弁を求めて、2回目移行の質問を続けたいと思います。よろしくお願いをいたします。

○議長（浜口鶴蔵君） 祝優雄君の緊急質問に対する答弁を許します。

選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 今市長選と、それから市議員選のことについてのご質問がありましたけれども、市長選の方から先にお答えしてもよろしいでしょうか。よろしいですか。

〔「どうぞ」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 市長選挙の方で確認団体の届け出があったのか。あったとしたらだれが届け人で、所在地はどなたで、目的はということでございますけれども、確認団体につきましては告示日に届け出がありました。団体名はいきいき佐渡の会で、所在地は両津市夷で、川口徳一氏を市長候補に有する団体です。これ公職選挙法第201条の9により、選挙期間中にも政治活動を行うものでございます。

さて、もう一つの法定ビラの1号が新聞折り込みで配付されたが、事前審査はなされたのかということでございますけれども、この法定ビラにつきましては届け出のときに確認をいたしました。それから、内容について問題点を指摘した箇所があったかということでございますけれども、ビラの内容については皆さんもご存じのように候補者の氏名が類推されるものについては公職選挙法で規制されている旨の指摘しております。それと、法定ビラに明らかに事実と異なる表現があるが、どのように対処されたということでございますけれども、あくまでも内容については団体の責任に帰するものでございます。事前審査のときに県の選管の内容を照会したのかということ、だれがいつ出したのかというようなことでございますけれども、県の選挙管理委員会への連絡は行っております。これについても、候補者の氏名を類推させるものはよくないとの指摘以外はありませんでした。また、いきいき佐渡の会の方からの届け出がありました。以上でございます。

それから、市議員のことについてでございますけれども、選挙事務についての反省点をお持ちならお聞かせ願いたいということでございますけれども、選挙事務については正確が第1、かつ迅速が肝要であると心得ています。ご存じのように、今回の選挙は旧10カ市町村で行っていた選挙を一つにして実施した

ものであります。開票結果の遅延等、反省、検討すべき点はあると思いますが、今後の選挙事務に生かせるように再度分析をしていきたいというふうに、かように思っております。

それから、開票区のことを1カ所で行われたのはなぜかというようなことでございますけれども、この開票区につきましては公職選挙法第18条の規定により、開票区は市町村の区域によるとありますので、この規定により1区、1区域で行われたものでございます。

それと、開票事務終了時間が翌日にずれ込んだと聞くと、その理由はどうかということでございますが、これは佐渡市合併の初めての選挙ということで、いまだ経験のない票の多さ、同時選挙、多人数の立候補者、同姓同名の方、同姓または同名の方、案分票の確定、これらを複合的に考えて、まず正確、慎重にやらざるを得なかったということが理由に挙げられると思います。

それと、もう一つの通称認定の申請書にある呼称の扱い、それとそれ以外の呼称の扱いというものはどういうものかということでございますけれども、通称認定申請書の呼称と呼称届け出の違いということだと思いますけれども、これは大きな違いとしまして、書類上は前者は選挙長が通称として認定し、認定書を交付した呼称、これに対しまして後者は選挙長が通称認定を行使していない呼称というふうに区別されます。ご存じのように選挙長が認定した呼称は、立候補届け出の告示、それから新聞広告、選挙公報、投票所記載の氏名記載場所に使用されるということになります。後者の呼称届け出は、選挙区内、佐渡全島の選挙区内で選挙長がその呼称が通称化されているかどうか調査する参考資料と思っていただければいいと思います。

それと、開票所で開票事務に当たる職員と開票立会人に選挙管理委員会が呼称の扱いについての説明はどのようなものだったか、そういうことでありますけれども、開票事務従事者につきましては、明らかな有効、それから白紙等明らかな無効、疑問票と分類するようにしか説明してはおりません。開票立会人の事前打合せ会では、呼称については質問がありました。これに対しては、最終的には選挙長が決定するものであるが、呼称については佐渡市全島の選挙区の全体の中で通用度が必要であるので、それを念頭に置いて判断していただきたいと説明をしました。

以上ですけれども、何かありました。

〔「2回目で答えて」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 祝優雄君の2回目の緊急質問を許します。

○51番（祝 優雄君） それでは、今答弁いただいたところで相当よく状況がわかってきた部分があります。

それで、今答えられなかった部分、これは公選法の67条に付随する部分、この部分については今お答えができなかった。しかしながら、一番重要なところでもありますから、しっかりと確認をしていただきたい。投票というものについては、投票した人の意思を最大限にくみ上げていく、このことが公選法の趣旨なのです。今あなた方は、選挙区内にどのくらいこれが通用するのかによって判断をしたと。だれが判断するのです、そんなもの。投票した人の意思をどれだけくみ上げて、有効、無効とするかということなのでしょう。そんなこと簡単に選挙長が決めるのですか。違うでしょう。もう少し基本的に立ち返ってやってください。それと、もう一つは、開票立会人の意見を聞いて決定するという。その場の状況を把握しないで、何で選挙長が判断するのです。このことについては、明確にお答えが必要です。

それから、今までも呼称についての説明については非常に不足しておるということも明確になりました

よね。このことをあなた方がどういう判断基準でやったのかということも明確になっていない。これは、あなた方が決めるのではなくて、投票する人がどのくらい認識しておるかで決めるのです。認識しているから、その人の通称を書いたのでしょう。そうすれば、その人への投票だということは明らかにわかるではないですか。明らかにわかるものをどうして救わなかったのです。当然救う義務があなた方にあるのではないですか。説明も中途半端だ。扱いも中途半端だ。法の趣旨もよくわかっていない。そんな方々が選挙事務やってどうするのだ。我々候補者にとっては、命を張ってやっているのです。中途半端な判断してもらっては困る。明確にです。それから、専門家にも、ここまで時間があるのだから、聞いているのでしょうか。

それから、市長選挙については、県の選管からも注意を受けた。この候補が、このビラが特定の候補を推察できるものは困ると言った。これは今言いましたよね。言いましたね。これは、確認団体を申請した人のチラシです。後援会のチラシです、これが。よく見ていてください。あなた方が認めたという法定ビラはこれです。特定の候補を、どうですか。わかりませんか、これで。そのものではないですか、これ。それがどうして審査を通っていくのです。あなた方が注意をしたと。これ同じでしょう。どこ見たって同じだ。これをあなた方が法定ビラ1号として認めたものです。これは、後援会が皆さんに無差別に配ったものです。これどこ違う。内容にしても、これある月刊雑誌の記事を書いています。あの記事は、私も何度か読み返してみましたけれども、最後は確認した結果そんな事実ないと書いてある。そんな事実ないところをはねて使っているのではないのですか。こんないいかげんな話はないでしょう、いいですか。選挙に関する報道についても、表現の中で自由ということをはんらんさせてはならない。選挙の公正を害するものはいけないとある。まさしくこれ公正を欠いておるのではないですか。このことについて、まず今あなた方の持ち合わせておる範囲の答弁をいただきますでしょうか。

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁を許します。

選挙管理委員長。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 法定ビラですけれどもね、ですからこちらとしては氏名を類するものはいけないと。内容については、確認団体が責任を持ってやっておるわけですから、そういうことです。

それと、さっきのあれですけれども、公職選挙法についてはこれは46条の中で、公職、当選は候補者の1人の氏名を自書し、投票箱に入れなければならない。これは自書、自書というのは自分で書くという。

〔「もう少しちょっとわかりやすく話をしてくれますか。ちょっと聞き取りにくい、言葉が」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） では、もう一回何を。はっきり一つずつ言って、上げてください。

〔「私が聞いたことをあんた答えて……」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） だから、私今答えたでしょう。

〔「だから、もうちょっと歯切れよく答えて。何かもやもやとわからないから」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 公職選挙法46条、投票は候補者1人の氏名を自書し、投票箱に入れなければならない。これは自分で書く、これは自書投票主義というわけです。運用上は、原則として氏

名を記載する、させるという趣旨である、こういうふうに言われておるわけです。だから、呼称というのはさっき言ったように通用度の問題なのです。だから、佐渡市全島、全国の中で通用度があるかどうか、そういうこと問題になるのではないですか。ただ一ところや一つの部落の中でその人が知っているからといって、それから選挙運動だってそうでしょう。佐渡市全島を街宣車で回って、選挙運動しているわけです。今までのように旧市町村単位の選挙ではないということは、当然自覚してもらわなければいけない。認識してもらいたい。そういうことです。

〔「市長選挙のこのビラどうなの」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 市長選挙のビラ、さっき言いましたようにそれについての規制については、名前を類推するものはいけません。氏名を。それ以外のことについては、確認団体が責任を持ってやることです。それは、確認団体の問題でしょう。選管の問題ではないです。それについては、県の選管でも一応確認はとっております。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 祝優雄君。

○51番（祝 優雄君） これ選挙管理委員会勘違いしています。これ勘違いで済まされることではないのです。いいですか。例えば呼称が全島で理解をされていないから、だめだというのだから決めるのです。その判断だれがしたのです。これは、投票する人がAだと、この呼称ならAだとわかると投票したのです。そしたら、その地域の周辺の方々がわかるものであれば、救うのです。例えば佐和田であるものが羽茂へ行って聞いてわからぬから、これはだめだよというのではないのだ。投票した人のその気持ちをどうやって最大限救っていくかというのが公職選挙法なのではないのですか。投票した人がだれに投票したいかわかればいいのです。あなたのやつは、両津の私を相川の人がおれの名前を知らぬというのと同じなのだ。そうすると、祝と書いてあるのはだめということになってしまう。自分のうちの店の名前とか屋号をつけて選挙運動した。それが両津だった。羽茂の人や小木の人は、それは知らぬでしょう。だけれども、それは投票する人はわかっているから、投票したのです。それを救うのが当たり前ではないですか。そのことが67条にあると私は指摘しておるのです。しっかり物を見ながらやってください。感情論で物事言っているのではない。今こうやってくると異議申し立てがあるということも私は承知しておるから、ある部分については触れないようにしている部分もあるのです。しかし、基本にかかわることはそんなわけにいかない。法のもとの平等性というものをしっかりわきまえて職務についてください。指名されたから、職務につくのではない。今の中でいっぱいこと出てきたのは、確認できたことは説明不足だということ、そして判断のミスをしているということ、こういうことが今の中でも出てきています。ですから、これはしっかりとした形で対応していただきませんと、せっかく我々と同じ土俵の中で選挙をやってきた者、これは報われません。

もう少し指摘をしておきますと、この間については看板をかけない無届けの候補者も出ておったでしょう。それから、法定の届け出しをしていない看板が設置されていたり、そういうものを何週間も指摘をされるまで黙って見ている。こんなことで佐渡市としての選挙管理委員会、そしてまたその選挙管理委員会に身を任せて選挙をやる我々の立場になってください。まるっきり公平性がない。我々は、その制限の中で選挙運動やっている。それをわからぬから、見逃したでは済まされない。その辺をしっかりとらえて、

まず私もこれで終わりになりますから、最終答弁をしてください。

○議長（浜口鶴蔵君） 3 回目の緊急質問に対する答弁を許します。

選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） では、お答えします。

有効に認めなければいけない、それはわかります。ただ、さっき言ったように、これは原則あくまでも氏名、自書主義なのです。呼称というのは、よく判例でも見てください。通称化されていると書いてあるでしょう。選挙区の中で通称化なのです、これ。今までどおりではないです。よく調べてみてください。それから、言われたようにちょっと実例というのこれありますけれども、世間一般のが通称ということなのですけれども、そのような呼称は当該選挙区内において広く慣習的に通用されている状態であることを要するものと解されている。呼称ってそんなものなのです。名前場合は、届け出ある名前、それから通称認定してある呼称、それはまた違うのです。ちゃんと判例で調べてください。

それから、さっき言った市長選の選挙ピラですか、それについては何回も言うように名前を類推するもの以外については確認団体が責任とってやればいいことではないですか。

以上です。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で祝優雄君の緊急質問は終わりました。

暫時休憩します。

午後 1 時 5 5 分 休憩

午後 2 時 0 0 分 再開

○議長（浜口鶴蔵君） 再開いたします。

次に、加賀博昭君の緊急質問を許します。

加賀博昭君。

〔58 番 加賀博昭君登壇〕

○58 番（加賀博昭君） 通告表に従いまして緊急質問を進めてまいります。

私は、議場の皆さん方には資料 1、2 というのを差し上げてあります。私がさらに資料 6 まで持っているのですが、これは第 1 回の答弁を聞いてからお渡ししようと思ってあったが、先ほどの答弁を聞くと、これは第 1 回の答弁を聞くまでもなくこの資料は差し上げるべきだなと思いますから、ただいまから関係者だけに資料を渡します。

では、ただいまから質問に入ります。歴史的な佐渡市議会誕生の臨時市議会で、議員の身分、議会の運命にかかわる緊急質問をしなければならないことはまことに残念でありますけれども、市民から負託を受けた議員として、32 年の年輪をもってその知識を佐渡市の礎をつくるためにと選挙運動を進めた者としては、おのれの身分を失うことがあっても、公正な選挙、その結果を求めることが私の市民に対する使命であるというふうに認識するから、これから質問をしてまいります。

平成 16 年 4 月 18 日執行の市議会議員選挙は、選挙管理委員会の開票事務の重大な誤りによって、法的には選挙無効、当選無効を同時に訴えることができるという前段未聞の大失態を引き起こしてしまいました。具体的に質問してまいります。選挙管理委員会が開票に当たって呼称を全部無効とした結果、本来当選と

なるべき者が落選し、落選となるべき者が当選者になっている疑いがあるということです。このことについては、この決定がなされたことが公表されたときから14日以内に異議申し立てができることになっておる。その異議申し立てには、公職選挙法第202条、選挙の効力というのですが、わかりやすくは選挙無効と、こう申し上げます。もう一つは、公職選挙法206条の当選無効の異議申し立てができる道を開いてしまったことをごさいます。挙げて選挙管理委員会の責任なしとは言わない。これは、選挙管理委員会が起こしたこの事件について、選挙管理委員会自らがどう始末をつけるかに重要なかぎが託されておる。その始末のつけ方をわかりやすくするために、私が起案した二つの異議申出書を皆さんのお手元にお配りしてあるわけであります。今度の事件というのは、冒頭申し上げたとおり選挙管理委員会が事前説明会で呼称届け用紙を配付して屋号等を届け出る者に届けさせ、開票では屋号等を全部無効としたために起こった事件であります。そこで、屋号というのは既に選挙行政実例で明らかになっており、またさらに困難な見分け方については最高裁判所が判例で示しておるところをごさいます。皆さん方にお渡しした資料の3項で明らかにしております。異議申し立ての趣旨及び理由というところで明らかにしておりますので、改めて見ていただきたいわけですが、選挙管理委員会が逃れることのできないのが昭和26年4月18日付の通称化した（屋号）のみを記載した投票は有効と解してよい、こうなっておる。屋号が有効なこととは疑う余地はない。これを選管がなぜ無効としたのか。その無効とした根拠を示されたい。私が最初の質問だと、こう言うのです。

ところが、先ほどの質問者に対する答弁で、その呼称、屋号が広く佐渡全島に行き渡っておるものなのかどうなのかというようなことが疑問であるみたいな答弁をしておりますから、改めて加賀緊急質問の資料2を見ていただきたい。ここの理由のところでは、通称化した屋号のみを記載した投票は文字で記載されたものについては有効と解してよいとなっている。それから、これは非常におもしろいのですが、最高裁が昭和30年3月2日に出した判決で、中山文次郎という人の屋号が山中屋というのであるが、問題になった投票用紙というのは中や、平仮名のやです。それから、片仮名のヤを書いて中や、これが中山文次郎の有効投票であるかどうかということが議論になった。その結果、最高裁はこれは中山文次郎の得票である、こう決定された。こういうことを一切無視したのが今度の佐渡市選挙管理委員会、なかんずく委員長、西村泰弘、この責任極めて重大である。

そこで、議員の皆さん方には差し上げていないが、選管及び関係者に渡しておる加賀資料の3見てほしい。いかにあなたたちがでたらめな選挙事務をやったかということは、この資料が明らかではないか。あなたに読ませようと思うのですけれども、それはちょっと酷だ。私が読みます。呼称届の左側、平成16年4月18日執行の両津市議会議員一般選挙において、投票の効力決定の際に次の呼称を有効とされるようお願いいたします。こうなっておる。下にどう書いてある。佐渡市議会議員一般選挙、選挙長、西村泰弘と書いてあるではないか。右側を見なさい、右側を。平成16年4月18日執行の佐渡市議会議員一般選挙において、投票の効力決定の際に次の呼称を有効とされるようお願いいたしますと。下は、やっぱり選挙長、西村泰弘と書いてある。私の袋にこれが入っておる、2枚。いかにあなたたちがふまじめな選挙事務をやったか、これ一つ見れば明らかだ。

次に、もう一枚まくってもらおう。次に見ていただきたいのが加賀資料の4、一番下のところに色塗りがしてある。呼称届2枚。候補者交付書類一覧表。その一番最後に、呼称届2枚と書いてある。それが今

間違いを犯した、私が読んだやつが入っておったわけだ。

次に、資料の5を見ていただきたい。おもいやりというのがある。これが皆さん持っておらぬから、見せますが、このおもいやりというのはこれが店の名前である。その下におもいやりとある。これは、選挙カーについてある看板である。新聞紙上出ているから、あえて名前申し上げさせていただくが、市野誠という候補者が、市野では余り札がとれぬからということかどうかわからぬよ。おもいやりというのを前面と後面に張って選挙運動をやった。ところが、これをことごとく無効票にしたわけでしょう。

そこで、資料の6を見ていただく。一番最初に赤塗りがしてある。屋号無効は不正と。わかりますか。こんなご迷惑をかけたことについて、選挙管理委員会はいささかの反省もないのか。自分たちの執行にいささかの批判されるものはないと言い切れるのか。答えを願いたい。

ちなみに、もう一つ申し上げておきます。これは、今度あなたに読ませますわ。公職選挙法67条、これは何が書いてあるかといえば、開票の場合の投票の効力の決定というのだ。投票の効力は、開票立会人の意見を聞き、開票管理者が決定しなければならないと書いてある。さらに、2項いってもっと厳しいことが書いてある。その有効、無効の判定には、公職選挙法68条の規定に反しない限り、投票した選挙人の意思をしっかりと見定めて、それが明白であれば有効とするようにしなければならないと書いてある。それでは、68条の規定とは何か。所定の用紙に書かなかった投票、候補者でないものを書いたもの、きちっと明示されておる。この一連のことについて、選挙管理委員会は自分がやったことについて、胸を張って私どもの選挙執行には間違いがございませんと言い切れるのかどうか。私は、一つひとつ法律の条項、判例、そういうものを明らかにした。

最後に、もう一つ聞いておきますかな。加賀資料のナンバー2、一番下のところに根拠条文というのがございます。選挙が19日に終わっておりますから、公職選挙法202条、206条の規定でいけば、時効は3日をもって完成してある。ところが、公職選挙法に関する異議の申し立てというのは行政不服審査法第15条を引用するという事になっておる。ところが、この時効については行政不服審査法第14条は適用しないとなっております。どういうことかといえば、その最終日が祝日及び休日、その他の休日に当たる場合は、その日を除いて最終日とするというのがこの条項の運用規定である。改めて聞きますが、そうすると本日まで異議の申し立て期間があると、こういうことになるわけです。テレビが映っていますから、恐らくこの質問を聞いて、ああそうか。それでは、きょう異議の申し立てすればまだ間に合うのだなという人があるかもしれません。間違いなく間に合います。本日の12時までに出した異議申し立ては有効であります。

以上申し上げて、1回目の質問を終わりますが、私が選管に問うておることは、くどのようなであるが、あなたたちの選挙執行についていささかも批判されるべきものはなかったのかどうか、それが1点。今証拠をもって質問しておりますが、皆さん方はこの事件を解決するために今選挙管理委員会は何をなすべきかというふうに考えておるのか、この2点について明快な答弁を求めて、第1回の質問終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君の緊急質問に対する答弁を許します。

選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） では、ご答弁します。

資料2の方のところ、加賀さん示されました理由ということで、選挙関係事例によれば、通称化した屋号のみを記載した投票は文字で記載されたものについては有効と解してよい。これはそのとおりなので

す。だけれどね、これ前を省いています。これは選挙区の中で、そういうことなのです。選挙区の中で通称化してあればいいのです。これ前省いているのではないですか。それと、その下のところ、最高裁の判決で山中屋、これもこのとおりで結構です。だけれど、選挙区の中でということなのです。それが抜けています、これ。

それと、いっぱいあるものですから、済みません。資料3の方です。呼称のお願いということで、これは呼称の方については有効されるようにお願いしますと、そういうことなのです。ですから、この呼称はさっき私も言ったように、この呼称は通称認定、選挙長が通称認定した呼称とは違うのです。呼称を有効されるようにお願いします。これは、選挙区の中で選挙長がこれが通称化されているかどうか調査する参考資料と言ったでしょう、さっき。そういうことなのです。

それから、有名な判例一つ、佐渡のことなのですけれども、示しておきましょう。加賀さんよく勉強しているので、わかんと思いますが、佐渡についても両津のことについて1度本店というの、これが通称と認められたのです。これ中もよく読んでみてください。この中では、その呼称は選挙区内でかなり広域にわたり氏名にかわる通用度をもって通称となっているものとよいということで、この本店は認められたのです。これが大事なのです。

それから、効力の決定については開票立会人の意見を聞いて選挙長が判断する、決定する。これはそのとおりです。ですから、今回の市会議員の一般選挙だって、開票立会人10人の判断を仰いで選挙長が判断して、この結果になったのではないですか。そういうことです。

あと、それだけだったかな。あとは、無効になったということですか。

〔「あんたちょっと……」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） これ無効になったとか……

〔「67条と68条は……」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 67条ね。

〔「68条、あんた読んでください、条文を。どうなっておる」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 67条、これはさっき加賀さんおっしゃったように、投票の効力は開票立会人の意見を聞き、開票管理者が決定しなければならない。その決定に当たっては、第68条、これは無効投票のことです、の規定に反しない限りにおいて、その投票した選挙人の意思が明白であれば、その投票を有効とするようにしなければならない。

〔「明快じゃない」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） ですから、これさっき言ったように投票というのは自書投票主義、これが原則なのです。自書というのは、さっきも言いましたけれども、自分で書く。自分で書くというのは、氏名を書くというふうに言われているわけです。だから、その辺については有効にしなければならないということは、誤字があったり脱字があったり同音異義があったり、そういうことについては有効になる場合もあるわけです。有効にしなければならないということは、一般選挙民がすべて正確な名前を書くわけでもないで、文字の転倒があったり、そういうことについては有効にしないとい、そういうことなのです。

〔「明快じゃない。そうすると、私とあんたとどこが意見が違う」と呼ぶ者あり〕

り]

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） おかしいね。

では、以上ですけれども。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君の2回目の緊急質問を許します。

加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） あなたがあえてそれを言うのであるから、私はしょうがないから、その当時のいきさつを、あなたより私の方が詳しい。

まず、あなたはこう言いましたね。選挙区の中で通称化されておるかどうかが。佐渡の端々というのではないのです、これは。これは、両津で私もかかわり合いを持っておるのですが、重要な判決がある、東京高裁の。それは、浜本七右衛門さんという人と柴田四郎右衛門さんが1票の争いで裁判になった。0.75の差で柴田四郎右衛門さんが当選したといういきさつがある。このとき両津市選挙管理委員会は、本店というのを無効にした。柴田四郎右衛門さんが私が当選したのだという根拠は、酒屋という札がおれの札だといって争った。東京高裁行ったら、酒屋は無効だと。しかし、選管が無効とした本店は柴田四郎右衛門のものであるというふうにやった。ここからが大事なのだ。東京高裁どうやって調査したと思いますか。全く佐渡の人でない人を5人配置をして、柴田四郎右衛門さんというのは福浦というあたりに住んでおる人。それを5カ所から入って、私は本店さんのところ、本店という家があるというのが、そこへ行きたいのですが、本店はどこですか。ああ、本店か。それは柴田本店というのだ。それで、東京高裁は選管が無効とした本店を採用して、柴田さんが当選した。これは、昔の話をしておるのではない。あなたこう言ったでしょう。選挙区の中で通用しておるのかどうかということ。両津市といえども、本店が柴田四郎右衛門だということをおんな知っておるわけではない。岩首の果てへ行ったら、本店とはどこだと言ったら、それは柴田四郎右衛門だという人はだれもおらぬのだ。わかりますか。つまりあなたの言うこととも私の言っておることも符合しておるのです。あなたは、選挙区の中でその屋号が通称化されておるかというのは、佐渡の隅々にまで至らなくともいいのです。ある特定地域にそれが通称化されたものであればよろしいと、こうなっておる。認めますか。

次に、あなたこう言っておるでしょう。通称化されているかどうかは、私が調査をするのだと、選管が。あなた、それなら屋号で出したのを調査しましたか。あなたに今見せたでしょう、具体的に。うちの店がおもいやりだから、看板までおもいやりと書いて選挙した。その結果、あの地域だな。あの地域行って、あなた調査しましたか。おもいやりとはだれのことですかと聞いた経過がありますか。ないでしょう。あなたの答弁は、ことごとく私と、加賀と一緒にございますというふうに聞こえるのだ。

そしてまた、あなたが最後に申し上げた67条、つまり開票の場合の投票の効力というのは、開票立会人の意見を聞きということなのです。開票立会人に、これ有効としていいか無効としていいかということをお聞いて、管理者が決定する。当たり前作業のことです。そして、では一体、ここから先が大事なのだ。これは、開票立会人に聞かなくともいいことなのです。選挙管理委員会に責任があるのです。68条というのは、はっきりしておるのです。明らかに候補者でないものを書いた。明らかに投票用紙でないものを書いた。それ以外は、選挙人の意思を明白に確認をして、有効としなければならぬということになれば、まさに呼称、屋号だな。屋号は、佐渡市選挙区内の中で通称化された屋号。それは、全体でそれが認識され

なければならないというものではない。私が相川へ行って、そんな札なんかとれません。赤泊行って、そんな札とれません。私に通称があるとすれば、両津で、それも一部分しか通用しないというふうに読み取れるのではないですか。大体あなたの答弁とおれと一緒にしておるのだけれども、そうするとあなたは今度の選挙には、執行には瑕疵があるというふうにお考えですか。

そして、私が最後に、第1回のときに念を押して聞いておることがあるのです。これを円満に着地させるためには、選挙管理委員会は何をなすべきかと考えておるか、こう聞いておる。もう一回聞いた。どうぞ。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君の緊急質問に対する答弁を許します。

選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） さっきの何か看板ね、これも一つ、これはね一つは選挙ポスター、それから自動車の看板、これについては立候補者の戦術、戦略の中で発想してやればいいことでいいのではないですか。選挙管理委員会がポスター内容、これについてどうの言うということはないです。

それと、さっき言ったように呼称の問題は、さっきもちょっと言ったように、確かに世間一般というところでさっき私も言いましたけれども、当該選挙区において広く慣習的に使用されている状態にあるということです。それは、加賀さん言うように具体的に細かいことまで言うというのは、そこまで私は言っていない。選挙区の中の通称化と言っていることです。

それから、さっき言ったように今回の選挙については、開票立会人10人の判断を得て選挙長が決定したのです。間違い何もないです。

それから、通称化の調査、これは確かにいろいろ難しいことがあると思いますけれども、簡単な一つの例として言えば、皆さんから選んでもらった選挙管理委員の人にまず、どうだ、これはある程度わかるかどうかというふうな調査の方法も一つあるのではないですか。調査の方法としては、あくまでも私は、細かい屋号の人もいっぱいいます。通称を出していない人もいるし、出していない人もいます。それから、細かい屋号は、私も屋号持っていますけれども、わかりません。やっぱり選挙区の中で、しつこいようだけれども、通称化と、そういうことです。

〔「あんたに説得されることはない。私が聞いておることに答えなさい」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） ちゃんと答えています。

〔「ちゃんと答えなさい」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 答えています。

〔「じゃ、答えなさい」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 答えているではないですか。

〔「答えなさいと……」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 通称化されていると言ったでしょう。

〔「しょうがないな、あんたの答弁。あんた、議会へ出てくる答弁者としてはふさわしくないね。答弁技術もわかっていない。まあいい。答えなさい。私の質問したことに答えなさい」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 一つひとつ……

〔「答えていないでしょう」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） もう一つのが何ですか。言ってください。あと何があるのですか。私それで。

〔「じゃ、議長、わからんから、もう一回言えというんだから、これは回数に入れてはいけません。ここで私が座ったままでお教えします。この問題をうまく、円満にという表現は適切ではないが、うまく解決するためには選管は何をなすべきだかと考えておるかとおれは聞いた。答えられますか」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 何をなすべきかって、ちゃんと……

〔「それでわからんけりやおれがもう一回聞くから」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 立会人の意見を聞いて、決定したわけでしょう。

〔「うそ言え。そんなことはない。座りなさい。じゃ、おれがその次聞く」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君に申し上げます。

3 回目の緊急質問を続けてください。

加賀博昭君。

○58番（加賀博昭君） それでは、今度のあなたの選挙の、あなたのというのは選挙管理委員会です。選挙管理委員会の選挙執行について異議申し立てが出ておる。新聞報道もなされております。新聞報道は最も厳しい。資料3であなたに差し上げているので、資料6だな。資料6で差し上げているのに、屋号無効は不正だ。つまり選挙管理委員会が不正をしておるから、選挙やり直しだというのが新聞報道になされておる異議申し立て。私が冒頭申し上げたように、これの異議申し立てには2通りあるのだ。できるのだ。投票無効、つまり有効、無効が問われる。正確に言いましょうか。公職選挙法206条の選挙の投票の効力、当選の効力、それと選挙無効は新聞報道でなされている。この二つが出ておるのかどうか。どの異議申し立てが何件出ておるのか。まず、これをお答えください。これが出ておるということ、二つ出ておるということになると、これは極めて深刻なことなのです。一方は、落選者と当選者と入れかえる作業をやりなさいというのが一つ、もうこの選挙そのものが根こそぎ無効だということと二つ出ている。一体その内容はだれから出ておって、どうなっておるのか。まず、これを説明願いたい。

それで、その上で、私が先ほどから言っておるが、これを円滑に解決するにはどうしたらいいのだとあなたに聞いておる。この説明がないから、答えないという姿勢だから、改めて申し上げさせていただいた。

そこで、これから市長に申し上げる。この二つの異議申し立てが同時進行したらどうなるか。一つは当選入れかえということと選挙が無効と、こうなる。一番最悪の場合の選挙の無効というのは、東京高裁いっても、私の経験からして1年半で決着はつきます。そうすると、もう一回選挙やらなんとなる。一体もう一回市議会議員選挙をやるということになると、お金が幾らかかるのだから。もう一つ、1年半か2年たって、もう一回60人の選挙をやるということになったら、これは市民は怒り出します。選管のまことに注意不足の選挙執行によって、莫大なお金がかかったおまけにまた60人の選挙をやるのかと、こういう市民が

ら不満が出てきます。そうすると、この皆さんは順調にいけば4年間は議員バッジがついておるのですが、2年ぐらいでもう一回選挙やらなければならない。そのときは、30人にしてしまえという動きも出てくるのです。そういうことが想定されるのかどうか。まず、選管。次に、そのときに、これは非常に言いにくいことなのだけれども、議員定数というのは条例で定められております。そのときに市長は、あと2年間だから、まだあなた任期中だよな。そのときには、条例改正して30人の選挙をやらなければならぬというふうに考えるか、もう一回60人の選挙をやるというふうに考えるか、お答え願いたい。

それから、もう一度念を押しておきますが、もしこの3回目の答弁がいかかわしい答弁であれば、本日私が今度は、その辺の住民にやらせるのではないのです。私が異議の申し立てをやりまして、徹底的に、場合によれば東京高裁まで私はいくということを腹をくくって質問しておきますから、あなたも腹をくくって答弁してください。どうこの混乱というか、大混乱だ。これを收拾しようとお考えか、改めて聞きます。どうぞ。

○議長（浜口鶴蔵君） 加賀博昭君の3回目の緊急質問に対する答弁を許します。

選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） お答えします。

異議の申し立てについては、選挙無効ということで受けております。

〔「違うでしょう。あんた困るな。私の質問に正確に答えてください」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 選挙無効ということで異議の申し立てはあります。

〔「幾つある」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 今のところは、はっきりしたものはこの一つだけです。あとは、こちらの方としてはまだちょっとははっきり把握していないの也有ります。

それと、異議の申し立てがそれはありました。でも、これは一般論として言えば、ご存じのように日本の憲法は何人も裁判所において裁判を受ける権利を奪われないということでしょう。だから、訴えがあったからといって必ず勝つとも限らないでしょう。それは自由ではないですか。

〔「異議の申し立てが何件あったと聞いておる。答えていないじゃないですか。私が言うよ、それじゃ。わかっておるんだから。異議の申し立てが何本ありましたかと、書記長はどうなんだ。そんな質問なんてないよ、どこ行っただって。答えなさい。私は確認してあるんだから、事務局で。議長、しっかりしてください」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 答弁者に申し上げます。

異議の申し立てが何件あったかという質問に対する答弁を許します。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） では、これは書記長の方に説明させます。

〔「それから、あんた残しておるの後でまたやりなさいよ。どうこれを收拾するかというのはな。だから、こんなことになるんだ。こんな答弁に答えられんから」と呼ぶ者あり〕

○議長（浜口鶴蔵君） 仲川事務局長、答弁を許します。

○選挙管理委員会事務局長（仲川敏明君） 異議の申し出に關しての件数であります。

加賀さんの資料にもありましたように、市野誠さんから4月30日付をもって選挙効力の無効についての申し立てが1件ございます。それから、本日に、これは郵送で来ておりますので、まだ内容はしっかり確認しておりません。きょうの議会ありましたので、でありますけれども、当選の効力についての異議申し立てだと思っておりますけれども、内容についてはこれからしっかり審査しますけれども、が1件ございます。以上です。

〔「それは何が。4月30日のものはわかっておる。新聞報道のとおりだから、それはそうだ。もう一つは、どこから出て、いつ出た」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会事務局長（仲川敏明君） それは、きょうの受け付けでありまして、きょうこれから内容を審査しますので、ちょっとここでははっきりと……。

〔「それは、何の異議申し立てですか」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会事務局長（仲川敏明君） 当選の効力ということになっておりましたけれども、それが内容的に正しいかどうかはこれから審査いたします。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 異議の申し立てがあったこれからについてですけれども、これを当然選挙管理委員会を開きまして、内容については検討していきたいと、そういうことです。

以上です。

〔「あんたに答弁せえというのそれじゃないだろ。これをどう收拾しよう……」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 收拾するといっても、これはだからさっき言ったように国民の権利でしょう。

〔「国民の権利じゃ……」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） だからいいじゃないですか。異議の申し立てあったと、それ……

〔「選管は60日以内に決定するんじゃないの」と呼ぶ者あり〕

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） それは、法に従って粛々と行います。

○議長（浜口鶴蔵君） 選挙管理委員会委員長に申し上げます。

今後どのようにして対応するかということについての答弁がない。今後委員会として。

○選挙管理委員会委員長（西村泰弘君） 今後は、だから選挙管理委員会で検討して、やりますけれども。

○議長（浜口鶴蔵君） 市長。

○市長（高野宏一郎君） この後のこの問題について、例えばもし同じように60人で選挙やるということであれば、費用とすれば概算1億3,000万ぐらいだそうです。

それと、特にこの後の同じような対応につきましては、長の対応につきましては、非常に議員身分とのかかわり合いもあるので、軽々には長の発言としてはこの場では差し控えさせていただきたい。

○議長（浜口鶴蔵君） 以上で加賀博昭君の緊急質問は終わりました。

これで緊急質問は終わります。

○議長（浜口鶴蔵君） 本日の会議を閉じます。

本日はこれをもって散会いたします。

午後 2時49分 散会